

Ⅰ．景気の現状に対する判断理由等

景気の現状に対する判断の理由及びそれに対する追加説明等について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1．北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・大阪・関西万博の開催や沖縄の大型レジャー施設の新規開業が影響して、北海道を訪れる旅行客が減少することを懸念していたが、8月に入っても来客数が前年を上回って推移している。この要因として、北海道の観光地としての人氣が根強いことが挙げられる。特に、インバウンドについてはコロナ禍からの回復が進むなか、ゴルフなどのアクティビティが浸透していることで、夏の北海道旅行に対するニーズが高まっている。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・夏の観光繁忙期を迎え、国内線も国際線も観光需要が増加している。空港は観光客や帰省客などの利用で混雑している。国際線は、7月に地震が起きるといふ予言の影響で、香港からの観光客が前年よりも減少したが、中国、韓国、台湾などは堅調な伸びがみられている。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・猛暑が続いていることで、観光やレジャーどころではない人が多くなることを懸念していたが、天候に恵まれたこともあって、連日大にぎわいの様相を呈している。8月単月としては、過去最高の利用者数を更新している。物価高の影響で観光を控えるといった雰囲気は微じんもなく、特に国内からの個人観光客の利用が目立っている。外国人観光客の利用も相変わらず多い。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・8月はお盆前に様々なイベントがあり、天候に恵まれたこともあって、売上の良い状態を維持できている。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・今年は、ここ数年にないほど、お盆の帰省客が多かったことから、特に地方の店舗の売上が好調であった。その一方で、都市部の店舗の売上はやや低調であった。
		住関連専門店（役員）	販売量の動き	・売上の前年比が3か月前よりも上昇している。気温の上昇に伴って、夏物商材の販売量が増加している。
		高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・これまでの客単価の上昇を目指した施策が奏功して、高単価でも利用する客層が増えており、客単価が上昇している。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・本格的な観光シーズンに入ったことから、3か月前と比べて、観光客の来店が増えている。ただし、前年と比べると、来客数は減少している。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・若干ではあるが、個人客の利用が伸びている。旅客輸送量は前年を上回っている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・8月前半は、ここ数年と比べても来街者が多く、にぎわいがみられたものの、8月後半、特に20日以降は、来街者が目に見えて落ち込んでいる。お盆期間中は、帰省客が来街する様子もみられなかった。また、ホテルの宿泊客については、観光客の利用は前年と同程度であったものの、ビジネス客の利用が少なかった。月全体としては、引き続き悪い状態で推移している。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・8月の売上は、2024年比で106.5%、2023年比で137%、2022年比で212.2%、2021年比で521.2%、2020年比で457.6%、2019年比で131.7%となっている。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・来客数は比較的順調に推移しているものの、客単価が上向いてこない状況は変わらない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・売上の主力であるインハウスの来客数が横ばいであったことから、売上の増加はみられなかった。大きく売上を落としているラグジュアリーブランドもあることから、先行きについても不安である。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・新型ゲーム機など、趣味し好に関する商品については、在庫があれば即決で購入する動きがみられる。一方、バーゲンセールの商品など、不要不急の商品については、価格が安くなっていても購入を控える様子が見られる。客は金の使い方の優先順位をしっかりと決めており、結果として消費に回す金額は一定に保たれている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・6月末から7月にかけては、例年よりも気温が高かったことから、夏物商材の販売量が伸びたが、8月に入ってから例年並みで推移している。売上や来客数の伸びは、6月以前と同様の水準に落ち着いている。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・備蓄米使用の安価な弁当が好調に売れていることから、消費者が価格に敏感なことがうかがえる。ただし、間もなく販売が終了し、価格帯が元に戻るため、先行きが心配である。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・8月は気温の上昇に伴って、飲料などの販売が好調であった。ただし、お盆後の気温が落ち着いた日は、販売量が減少する傾向がみられた。このため、販売量の増加は一過性のものであり、客の消費行動は停滞したままであるとみられる。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・前月と同様に、物価高の影響で客の節約志向が強い状況にある。また、例年よりも暑い日が続いていることで、客が外出しない傾向がみられる。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・お盆前は、買う物も売る物も中途半端な時期であることから、夏枯れのような状況で閑散としていた。お盆後は、日中と夜間の気温差が大きくなったことから、羽織物を中心に販売量が増加している。月全体で見ると、前年をやや上回ると見込まれる。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車の登録台数に余り変化がみられない。メーカーの生産台数が増えれば、登録台数も増えることになり、収益も上向くようになる。整備部門については、在庫台数がやや増えているが、乗換えサイクルが伸びていることが要因である。そのため、全体の収益は変わらない状況にある。
		自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・8月は来客数が前年比110%、売上が前年比130%となっており、数字上は良くなっている。ただし、これは9月にタイヤの値上げが行われることが影響したためとみられる。タイヤの値上げがなければ、ここまで売上が大きく増加していなかったとみられることから、景気は変わらない。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	単価の動き	・石油製品価格に大きな変動がみられないことから、景気は変わらない。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・来客数も売上もほとんど変わらないため、景気は大きく変わらない。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・宿泊料金の上昇が続いていることから、旅費にも影響が出ている。客の動向は2極化しており、見積金額を確認して旅行を取りやめる人とその金額を受け入れて契約する人に分かれている。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・3か月前と比べて、来客数に大きな変動がみられない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・採用に注力した効果で乗務員が順調に増えている。8月のタクシーの稼働台数は、前年比で20%の増加となり、タクシー1台当たりの売上も前年比で6%の増加となったことから、会社の売上は前年比プラス30%と大幅増収であった。ただし、乗務員の採用コストや人件費、いろいろなコストの増加もあって、利益は前年並みであった。
		タクシー運転手	販売量の動き	・夏のイベントが開催されたことで、若干ではあるが、来客数が増えた。特に地元客の増加が目立った。商店街などでの取組が需要を刺激したとみられる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		タクシー運転手	来客数の動き	・お盆期間中のイベント時の利用も例年並みであり、特に変化はみられなかった。
		タクシー運転手	販売量の動き	・夏になり、観光客の利用が増加しているものの、乗務員不足が顕著なことから、思うような稼働状況とはなっていない。当業界においては、乗務員不足が深刻な問題となっている。
		通信会社（企画担当）	来客数の動き	・今年の春以降、都市部、地方にかかわらず、客からの引き合いも販売量も目立った変化がみられない。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・今後、米や食料品が大幅に値上がりする不安がなくなったことで、客の気持ちに多少のゆとりがみられるようになってきている。多少ではあるが、おしゃれに対する気持ちが上向きになっている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・例年8月は、夏季休暇などで帰省した人が来店する動きがみられていたが、今年はそうした動きが余りみられなかった。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・住宅が余り建っていないため、住宅部門が厳しい状況にある。また、食品などの物価が上がっていることで、ホームセンターの売上も厳しくなっている。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションについて、1週間当たりの資料請求数が比較的安定しており、モデルルームへの来訪予約数も大きな変化はみられない。最近の傾向として、客の商談時間が短くなっていることが挙げられる。来訪してすぐに購入申込みをする客もみられる。
		住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・建築単価が高止まりしているため、景気は変わらない。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・物価高の影響で可処分所得が減っている。販売量の落ち込みや客単価の2極化が進んでいる。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の反応は決して良いものではない。国の経済対策の方針がはっきりとしないため、景気が上向きような状況とはなっていない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・今年の夏は猛暑の影響で、客が家から出ることをためらうようになり、商店街は閑散としている。そのため、飲食も物販も来客数が伸びず、大幅な売上減少に見舞われている。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・物価上昇が続いていることから、家計を切り詰めて生活している客が多くなっている。そのため、客は最低限の物しか買わなくなっている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・物価高騰が続いているため、景気はやや悪くなっている。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・お盆期間中は、帰省客が多かったものの、旅行などで出掛ける人も多かったことから、全体的には来客数が減少している。
		スーパー（役員）	お客様の様子	・今年のお盆商戦は、例年よりも休みの期間が長いこともあって、帰省客や観光客が多く、好調に推移した。ただし、お盆期間中に金を使ったことで、お盆後は客の節約志向が強まっている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・8月は、7月と比べると暑さが落ち着いていたことから、飲料やアイスなどの夏物商材の販売量が減少している。また、今年はお盆期間の合間に平日が挟まり、休みが前半と後半で分かれたため、行楽需要も減少している。
		衣料品専門店（エリア担当）	来客数の動き	・お盆期間の来客数が、前年よりも少なくなっている。これは帰省や夏休みの行楽で外出した客が多かったためとみられる。また、必要なときに必要な物を買う傾向も変わっていない。そのため、今後、残暑が長引くと、景気は厳しい状況となる。
		乗用車販売店（経営者）	競争相手の様子	・当地域の新車登録台数は、競合他社の分も含めて、前年比66%と厳しい状況にある。また、今まで堅調に推移していた中古車や整備工場の売上、利益も前年を下回り、収益面で厳しい状況となっている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・現在の商品構成が弱いことから、景気はやや悪くなっている。10月に新商品が投入されるため、今後の販売量は多少回復すると期待している。ただし、物価高の影響が続いていることから、客の購入マインドの弱さは否めない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車の受注量も売上も前年を大きく下回っている。ただし、中古車やサービス工場の売上は前年並みで推移している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 [医薬品] (経営者)	お客様の様子	・SNSやテレビを通じて、客が薬の知識を得るようになってきている。悪いことではないが、当業界の場合、客からの健康相談に対応することが、販売促進の主要な手段となるため、やや厳しい状況にある。また、客のなかには、明らかに誤った知識を得ているケースも多々みられることから、正しい知識に訂正していくことも重要になっている。
		その他専門店 [造花] (店長)	お客様の様子	・大手事業者における一般貨物自動車運送事業の許可取消しの影響で、商品入荷の不安定な状況が続いている。中には、予定していた納期に間に合うめどが立たず、注文を取り逃すケースも生じている。また、お盆の影響もあって、客先が仕入れ自体を控える傾向もみられた。
		高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・お盆期間中の売上は例年並みであったが、8月後半は落ち込みがみられ、月全体では前年を下回った。客単価は、昼も夜も低下している。夕方のデパ地下で弁当を購入する外国人観光客が増えていることから、観光客による外食の消費額が減っていることがうかがえる。友人が勤務しているホテルも、宿泊人数や客単価が伸び悩んでおり、売上が減っている。
		旅行代理店 (従業員)	販売量の動き	・今年度に入ってから、余り良くない状況で推移していたなか、ここに来て需要が一層落ち込んでいる。特に取扱商品の中心となる企業の職場旅行については、物価の上昇、賃金の引上げ、経費負担の増加により、中止する動きも散見される。
		美容室 (経営者)	お客様の様子	・物価高の影響で、客の来店周期が長くなっている。
	×	一般小売店 (経営者)	来客数の動き	・8月は、今年に入って、最も客の動きの悪い月であった。例年よりも気温が高いことが影響しているほか、物価高や政治の不安定さにより、先行き不透明感が強まっていることが悪影響を及ぼしている。
	×	スーパー (店長)	お客様の様子	・令和の米騒動の影響で、前年の米の販売量が増加したことから、今年はその反動が生じている。
	×	スーパー (店長)	お客様の様子	・毎週のように商品が値上がりしているため、客の買物の仕方がシビアになっている。客はとにかく安い商品、値引きしている商品を選んで買っている。余計な物を買うような動きもみられない。
	×	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・7月に日本で地震が起きるといふ予言の影響が根強くみられる。いまだにインパウンドの団体客が減少しており、業績悪化の要因となっている。
企業 動向 関連 (北海道)		-	-	-
		食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・ここ2か月と比べると、インパウンドの需要が回復していることで売上が伸びている。
		建設業 (役員)	受注量や販売量の動き	・残暑の厳しい日が続いているものの、建設現場では熱中症対策を講じていることから、工程を妨げるような事態とはなっていない。各現場は工事の最盛期を迎え、フル稼働状態が続いており、計画を上回るペースで工事が進捗している。
		輸送業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・7月末の津波警報の影響で、作業スケジュール、配船ダイヤが乱れ、コンテナ専用の台車供給などに影響が出た。また、本州向けトレーラーは、一般雑貨、生乳、飲料関連の荷動きが鈍かったものの、紙パルプの一部、農作物の輸送量が増えたことから、全体をカバーした。
		その他サービス業 [建設機械リース] (営業担当)	受注量や販売量の動き	・人手不足、資材価格の高騰などのマイナス要因はあるものの、国内の公共投資は、国土強靱化基本計画への対応などで堅調に推移している。また、民間設備投資も堅調に推移している。
		農林水産業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・早生りんごについて、良い話を聞かない。今秋も青果物全体的に厳しい状況となることが懸念される。
		食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・売上に変化がみられない。
		建設業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・徐々に景気は上向きつつあるものの、人手不足が足を引っ張っている。人手不足が解消されない限り、本当の意味での景気回復とはならない。
		広告代理店 (従業員)	受注量や販売量の動き	・株価が底堅く推移していることから、景気に大きな変化はみられない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		司法書士	受注量や販売量の動き	・業務内容に多少の違いはみられるものの、販売量については、変化が余りみられないことから、景気は変わらない。
		コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・取引先における購買状況や来年度に向けた予算確保の動きが鈍化していることから、景気は横ばいで推移している。
		その他非製造業 [鋼材卸売] （従業員）	受注量や販売量の動き	・ベース商材については、スポット案件による積み増しもあって、数値上はよく見えるものの、それを除いた受注量は前年よりも減っている。市場の動きがまだ活発になっていないことから、景気は変わらない。
		金属製品製造業 （従業員）	受注量や販売量の動き	・今年度の新築注文住宅の着工棟数は、前年から12%の減少となっており、工場からの出荷台数も前年から15%程度の減少となっている。今後、回復するような兆しも見当たらない。
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・農作物の荷動きが良くない。水産物の漁獲枠も減少しているため、物量を余り期待できない状況となっている。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・仕入れに掛かる費用や人件費などのコスト増加が顕著なことから、企業収益が減少傾向にある。今後の投資についても悪影響が出ている。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・賃金引上げの動きは続いているものの、賃上げする際に重視するポイントが、雇用の維持・確保から、企業業績へとシフトしている。人手不足は依然として重要な経営課題であるものの、物価高や人件費増加による企業収益の低下が懸念される。
		その他サービス業 [ソフトウェア開発] （経営者）	受注量や販売量の動き	・発注が中止になるケースや決定が遅れるケースが増えている。
	x	司法書士	取引先の様子	・3か月前と比べて、仕事量も取扱金額も増えているものの、輸入品も国産品も軒並み値上がりしていることから、景気は悪くなっている。
雇用関連		-	-	-
(北海道)		人材派遣会社 （社員）	求職者数の動き	・求職者の登録が3か月前よりも増加している。企業の採用意欲は3か月前と変わらず高く、企業と求職者の面接数も増えていることから、景気は引き続き上向きで推移している。
		求人情報誌製作会社 （編集者）	雇用形態の様子	・今年に入り、アルバイト・パートの求人数の減少が目立っていたが、ここに来て求人数が下げ止まりつつある。その一方で、正社員の求人が減少し始めている。
		求人情報誌製作会社 （編集者）	求人数の動き	・アルバイト・パートの求人申込みが減少傾向にある。スポットワークの活用が進んでいることに加えて、アルバイト・パートの時給が上昇していることから、正社員採用にシフトする動きがみられるようになっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年から17.6%の減少と2か月ぶりに前年を下回ったものの、月間有効求人数は前年から3.1%の減少にとどまっており、求人数の落ち込みが大きいとまではいえない状況にある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における7月の有効求人倍率は0.81倍であり、前年を0.01ポイント上回った。
		職業安定所（職員）	それ以外	・何らかの変化を感じるような要素が見当たらない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・直近の求人状況を見ると、全産業において顕著な増減はみられないことから、景気は変わらない。
		学校[大学] （就職担当）	求人数の動き	・人手不足の状況は変わっていない。前年と比べても、大きな変化はみられない。
		求人情報誌製作会社 （編集者）	周辺企業の様子	・物価高が進んでおり、それに伴って様々なコストが上昇しているものの、それをカバーできるような売上増加はみられない。賃金の引上げも進んでいないことから、景気はやや悪くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	-	-	-

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (東北)		都市型ホテル (スタッフ)	単価の動き	・夏休みで家族連れが多く、単価が上昇している。
		観光名所(職員)	来客数の動き	・入館者数、土産品の売上共に増加している。
		一般小売店〔医薬品〕(経営者)	単価の動き	・暑さの影響が、来客数は全体的に前年より減少している。客は、滋養強壮剤、日焼け止めや肌の手入れをするための化粧品に関心がある様子がつかえる。
		一般小売店〔医薬品〕(経営者)	単価の動き	・家計にある程度余裕がある層で節約疲れが出ているのか、高価格帯の商品に動きが見られる。
		一般小売店〔酒〕(経営者)	販売量の動き	・猛暑続きの影響もあり、特にピヤガーデン等への販売量が前年を上回っている。また、コロナ禍以降再開の兆しがみえなかった地域や町内のイベント向け生ビールサーバーのレンタル件数が、新型コロナウイルス感染症発生前の約70%に戻っている。
		百貨店(営業担当)	販売量の動き	・インパウンドが好調に転じている。
		百貨店(経営者)	来客数の動き	・来客数及び化粧品の売上は3か月前と比べ増加している。帰省等の土産需要は減少している。お中元は簡略化する客が多く、前年割れしている。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・来客数、販売点数共に上向いている。客単価の上昇に関しては値上げも大きな要因だが、それも含めてプラス要因となり、売上は前年を上回っている。
		コンビニ(経営者)	来客数の動き	・週末と夜間の人々の動きが良好である。暑い夏ということで、飲料の売行きも好調である。
		コンビニ(経営者)	販売量の動き	・来客数、客単価共に前年比100%を超えており、順調に推移している。
		コンビニ(経営者)	お客様の様子	・猛暑と夏祭りのため、売上は例年どおり良い。ただし、本部施策で廃棄も大量だったため、利益が出るかは結果をみないと分からない。
		コンビニ(エリア担当)	単価の動き	・季節トレンドに加え単価上昇もあり、売上が増加している。
		コンビニ(エリア担当)	単価の動き	・前年から続く商品の値上がりや異常な気温上昇により、売上は好調に推移し、客単価も上昇している。ただし、来客数が前年並みにとどまっていることが懸念材料である。
		コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・例年より暑いいため、冷たい飲料や食べ物を購入する客が増えている。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・インターンシップの準備をする客が例年よりも早く動いているため、スーツやワイシャツが売れており、比較的好調に推移している。
		家電量販店(従業員)	来客数の動き	・気温が高くなり、下見を含め、エアコンなど夏物商材を目的とした来客数が増加している。エアコンは前年と比べて販売数量及び単価が上がっている。パソコンも現行OSのサポート終了に伴う買換え需要が高まっている。しかし、テレビの需要が大きく落ち込んでいるため、総合的にみるとやや良くなっている程度に落ち着いている。
		乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・買換えを検討する客が微増しており、販売台数が増えている。
	一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・来客数が予想よりやや多くなっている。夏休みやお盆で帰省した際など特別なときに当店を利用する客が増えたことが要因とみている。	
	観光型旅館(スタッフ)	来客数の動き	・夏休み期間は来客数が前年比105%となっている。曜日並びも良く、稼働率は連日98%以上である。	
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・今月の当社契約宿泊施設の年度内販売額は、3か月前と比べて2%ほど良くなっている。	
	観光名所(職員)	単価の動き	・物価高に慣れてきているようで客単価が上がっている。夏休み期間で、親が子供の欲しい物を制限することなく買ってあげている様子がみられた。少し景気が良くなっている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		競艇場（職員）	単価の動き	・今月前半は売上が低迷したが、お盆明けくらいから大口の客が来場するようになり、単価が跳ね上がっている。
		その他サービス 〔自動車整備業〕（経営者）	販売量の動き	・販売件数や単価などが上がっている。
		設計事務所（経営者）	販売量の動き	・新規契約や引き合いが継続している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・物価が上昇しているなか連日の猛暑もあり、客が来ない。
		一般小売店 〔茶〕（経営者）	お客様の様子	・客の会話を聞いていても、相変わらず景気が良い話は聞こえてこない。夏祭りも大勢の人でにぎわったが、景気が良くなっているという雰囲気は特になかった。
		一般小売店〔スポーツ用品〕 （店員）	単価の動き	・真夏の時期は数字が伸びづらい。暑い日が続く、ゴルフ場の利用者数が少ないことも影響している。
		百貨店（企画担当）	来客数の動き	・客単価は前年並みだが、来客数が大幅に減少している。
		百貨店（経営者）	販売量の動き	・帰省客や観光客が前年以上に増えた結果、夏祭りやお盆の期間は一時的に盛り上がった。しかし、月の後半は来客数が減少し、ほぼ前年並みの推移となっている。
		百貨店（従業員）	来客数の動き	・物価高が続くことによる買い控えに加え、猛暑が続き不要不急の外出を控える傾向にあり、来客数が伸び悩んでいる。
		スーパー（経営者）	単価の動き	・8月は、物流費のほか加工食品の追加値上げ等の価格転嫁が進んでいる。1品単価は、天候不順で畜産関係品など生鮮品の原価高もあることから、前年比4%近く上昇している。来客数と買上点数は、猛暑や豪雨などの天候不順もあり前年割れを起こしているが、単価の上昇率が大きかったため、売上は前年を超えている。全体的にみると消費の傾向は変わらず、依然として低価格志向も強く、財布のひもは固い。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・同じエリアに競合店が出店し、価格競争が激化している。客は目玉商品を中心に買い回っているため、買上点数が減少している。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・今年に入り来客数に変化が起きている。1週間の来店回数が3～4回から2～3回に減っている客に話を聞くと、商品価格が高くなり前のように買物に来られなくなったということである。
		スーパー（業務担当）	販売量の動き	・お盆期間もあったが、前年比では全体の売上が伸び悩んでいる。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・商品の値上げにより売上は少し上がっているが、買上点数は増えていない。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・人の動きは変わっていないように見えるが、来客数が減少している。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・現状維持が続いている。景気が上向き兆しはない。
		コンビニ（店長）	お客様の様子	・景気が良くない状況が長く続いているため、客は買物にメリハリをつけており、無駄遣いもしない。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・猛暑が続く、夏祭り期間中も例年より入出が少なかったため、土産品の売上は減少したが、法人関係のお中元や夏の作業服等の販売でカバーしている。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・セールを実施しても必要以上の買物はしない人が多い。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・コロナ禍で低下したアパレル需要が全般的に回復している。ただし、物価高や残暑が続くことにより秋物需要が飛ばされることが懸念材料である。
		衣料品専門店（店長）	それ以外	・売行きは非常に厳しかった前年と比べると若干回復した状況にあるが、全体をみると好調とはいえない。
		衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・前年比では売上及び来客数が90%、客単価は辛うじて100%の状態である。ここ1年、来客数の減少が続いている。
		家電量販店（従業員）	販売量の動き	・夏物家電は6月までの需要先食いの影響で前年割れしているものの、パソコンや携帯が好調で、相殺している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・オーダーを開始した車種は増えてきたが、受注がなかなか増えない。
		乗用車販売店 (従業員)	お客様の様子	・来場者数、在庫台数、販売台数の推移はほぼ変わらない。
		乗用車販売店 (従業員)	来客数の動き	・整備客も含め、来客数は一定程度ある。受注については、新車は車種が限られており、中古車も在庫不足のため苦戦している。
		住関連専門店 (経営者)	販売量の動き	・受注生産をしている。受注量は確定しており大きな変化はない。
		その他専門店 [ガソリンスタンド](営業担当)	販売量の動き	・補助事業により販売価格は安定している。猛暑による燃料消費はそれほどでもなかった。
		その他小売 [ショッピングセンター](統括)	来客数の動き	・レジ通過客数は前年比101.2%とほぼ変わらない。ファッション、雑貨では、前月までみられた速乾など機能性を重視したTシャツなどのジャストニーズアイテムの動きが弱まっている。お盆商戦では、レジ通過客数は前年比107%だったが、牛たんや鮭、笹かまといった定番土産品の取扱店舗では同110%を超えており、消費においてメリハリをつける動きが進んでいるようにみえる。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・前々月と前月の景気が悪すぎた状況は脱し、景気が良いわけではないものの、普通の状態に戻っている。
		一般レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・来客数は前年比99.3%ほどで推移している。
		観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・来客数は前年と同様だが、人手が不足しており十分なサービスが提供できているかは疑問である。
		観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・来客数は微増だが、単価が上がらず、売上は伸びていない。
		観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・相変わらず客に手控え感がみられ、来客数は日による変動が大きくなっている。良くなっているとはいえない。
		旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・第2四半期は、猛暑の影響で個人旅行の客足がやや鈍い傾向にある。第3四半期の見込みは、前年と同水準で推移している。
		旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・個人旅行は販売量、販売額共に横ばいが続いている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・猛暑のため通院や買物などで利用する人が多い。また、クルーズ船の客や夏祭りやコンサートなどのイベントに訪れる人、お盆休みの墓参りをする人の利用も増えており、駅や空港から乗車する人が多くなっている。
		通信会社(営業担当)	お客様の様子	・客の設備投資意欲に変化がみられない。
		通信会社(営業担当)	単価の動き	・単価は上がっているものの、数量は変わらない。
		通信会社(社会貢献担当)	販売量の動き	・来店はあっても売上につながらないケースが多い。
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・販売量に変化はない。
		観光名所(職員)	販売量の動き	・前年とほぼ同様の推移である。
		遊園地(経営者)	来客数の動き	・3連休の雨天、お盆を含めた猛暑の連続で、外出控えがみられる。家計が厳しいこともあり、来客数は良くなかった前年並みにとどまる見込みである。
		美容室(経営者)	来客数の動き	・来客数は前年並みに回復している。
		美容室(経営者)	お客様の様子	・暑いため高齢者は外出を控えている。来店頻度が低い状況は変わらない。
		住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・土地からの第1次取得者による新築注文住宅の受注は、高額のためかなり少ない。安価な建売住宅や中古住宅の受注が多くなっている。
		その他住宅[リフォーム](従業員)	販売量の動き	・住宅設備機器の設置工事は、気温の上昇に伴いエアコンが増えているものの、コンロ、給湯器は伸びていない。リフォームは、これまで経験したことがない連日の異常な暑さが影響し、屋内外の工事全般が減っている。エアコンクリーニングや害虫駆除・予防工事は増えている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他住宅〔住宅展示場運営会社〕（従業員）	販売量の動き	・成約棟数が多い状態で推移している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・猛暑の影響で高齢者を中心に外出を控える傾向にあり、来街者数はやや減少している。物価高は続いており、全体的に家計が苦しい状況である。
		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・県内出身作家の作品について受賞効果が薄れてきている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・売上は前月と比べて2%減少している。特にお盆の8月10～16日の売上が前年実績をギリギリ死守するレベルで、悪化の最大要因であった。帰省客が思いのほか少なかった。
		スーパー（店長）	単価の動き	・1品単価の伸びが前月より鈍化している。
		スーパー（商品担当）	来客数の動き	・客単価は依然として前年を超過しているものの、来客数がやや低下している。
		スーパー（店舗運営）	来客数の動き	・販売促進策を変更したことや商圈内への競合店の新規出店による影響が大きい。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・商品の値上がりで単価が上昇しているものの、来客数の減少分をカバーするには至らず、売上は前年割れしている。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・暑い日が続き来客数が少ない。お盆に帰省する家族を迎える準備などで忙しい客も多かった。客はもう夏物を買わず、秋物購入の意欲もまだ湧いていない。
		乗用車販売店（店長）	単価の動き	・販売台数はほぼ前年並みだが、売れ筋も低価格車中心で収益を上げづらい構造になっている。物価高の影響で顧客の値引き要求も一段と強くなっており、1台当たりの収益減少も全体の収益減少の要因になっている。
		住関連専門店（インテリアコーディネーター）	販売量の動き	・先行きに不安があるなか、必要不可欠なもの以外は購入を先送りしたり、購入するにしても予算を削ったりする人が多くなっている。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	単価の動き	・8月は例年と比べると動きがあったが、商品単価の2極化が進んでいる。特に家庭需要は低価格化しており、値上げがあるたびに大きな影響が出ている。
		その他専門店〔靴〕（経営者）	販売量の動き	・気温の高い日が続き、来客数が減少している。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・今月前半は予約も結構あり忙しかったが、例年同様、お盆明けからは予約がかなり少なくなっている。
		都市型ホテル（支配人）	来客数の動き	・訪日インバウンド、特に香港からの客の予約が減少している。7月の大地震の噂の影響が続いている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・東北全体では、最大ボリュームの8月でも販売量は前年比約85%である。外国人宿泊者数も伸びておらず、東北発の旅行商品の販売も大阪以外は良くない。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・放送サービスは、若年層のテレビ視聴者が減り続けていることにより、新規加入者数が伸び悩んでいる。ただし、利用者数は多く、解約者数も大幅に減っている。一方、インターネットサービスは、猛暑が続き自宅でのWi-Fiサービス利用者数が増加していることから、工事が不要のWi-Fiサービスの申込者数がやや増えている。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・来客数は、3か月前は目標値の約94.8%だったが、今月は同約88.4%と更に下回っている。
		その他サービス〔寮管理〕（管理人）	お客様の様子	・猛暑の影響でエアコンの使用が増え、電気料金の負担が大きくなっている。物価高騰も続いており、生活環境が徐々に変化している。気候変動により農産物も打撃を受けており、景気は下振れしている。
	×	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・毎日大変暑く、日中は人が出歩いている。お盆の頃は里帰りの人々で多少にぎわったが、売れる商品は経口補水液など飲料だけで、客単価は非常に悪い。また、今年は観光客が少ない。
	×	一般小売店〔寝具〕（経営者）	販売量の動き	・依然、客の買い控えが続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	スーパー（経営者）	お客様の様子	・お盆が明けてから、客の財布のひもが急速に締まっている気配がある。売上と客単価は確実に下がっている。
	×	その他専門店 [白衣・ユニフォーム]（経営者）	販売量の動き	・コロナ禍から売上減少が続いており、大口の物件が本当に少ない状況である。取引につながる新規店舗のオープンがない一方で、顧客企業の廃業や身売りなどはあり、影響がかなり大きい。人口減少や高齢化の影響で、地元顧客からの購入がなくなるケースも多い。
	×	一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・車の流れをみる限り、帰省客は例年と同じくらいみられたものの、長期滞在をして消費活動を行う人は減っている。前年、お盆に仕出しを注文した複数の客から、これ以上の値上げになると外注は厳しいとの話があり、実際今年は価格帯の低い物を選んでいて。年に1回の需要でさえ出費を抑えていることから、日々の消費は更に抑え気味になっているとみる。景気は悪い。
企業 動向 関連 (東北)		農林水産業（従業者）	受注量や販売量の動き	・果物の需要は相変わらず高い。
		食料品製造業（製造担当）	受注量や販売量の動き	・夏祭りやお盆の帰省、イベント等により人流が盛んであったため、特に飲食店の売上が好調をキープしている。また、通信販売においても、お中元に代わりSNSを利用してギフトを贈るなど購買スタイルに変化がみられる。
		建設業（従業者）	受注量や販売量の動き	・民間案件のまとまった受注契約があった。
		金融業（広報担当）	取引先の様子	・物価高や原料価格の高騰により、消費者の購買意欲が低下している一方、観光関連人口の流入は相応のペースを維持している。駅前等の人出は従前より多くなっている。
		経営コンサルタント	それ以外	・日米の関税問題や米の価格高騰等が一定の落ち着きをみせ、消費者の不安感が和らいでいる。
		その他非製造業 [飲食料品卸売業]（経理担当）	受注量や販売量の動き	・暑い日が続いており、飲料など夏物商材の動きが良く、受注量、販売量共に前年を上回っている。
		出版・印刷・同 関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・主力の印刷の受注が少なくなっている。
		出版・印刷・同 関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・夏休み、お盆の帰省などイベントがめじる押したが、受注量の増加につながっていない。例年の夏と変わらない。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・増産の情報はあるが、実際には反映されていない。米国の関税政策に関する客先の警戒感が影響している。
		電気機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・依然、具体的な仕事の話が少ない。
		建設業（従業者）	受注量や販売量の動き	・案件は相応にあるが、価格が折り合わない。採算を考慮して受注している。
		建設業（従業者）	受注量や販売量の動き	・受注量に変化はない。修繕などの工事はあるが、大型の新規工事が少ない。
		建設業（従業者）	受注量や販売量の動き	・建設費の高騰により、採算が取れず事業計画が白紙になる案件がある。しかし、案件が豊富にあり、受注量は対応できる最大を継続している。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・取扱貨物は、米が引き続き順調なほか、猛暑で飲料が増加している。一方、山口・九州地区の大雨により鉄道貨物輸送に障害が発生し、荷主工場からの出荷に影響を及ぼしている。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・客からの値下げ要請が常態化しており厳しい。
		通信業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・全体見積り等の価格が上がっている。
	広告業協会（役員）	受注量や販売量の動き	・猛暑による外出機会の減少が、景気を更に悪化させる要因になっている。広告業界全体で低迷状態が続いている。	
	広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・顧客の広告出稿意欲に変化はない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		公認会計士	取引先の様子	・顧客の月次、決算状況から判断している。小売業、サービス業は売上、利益共に好調な企業が多い。製造業は相変わらず売上が上がらない。建設業もここ2～3か月業績が芳しくない顧客が増えている。
		コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・前年よりも売上が落ちている。顧客の経営環境が厳しくなっているとみている。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	それ以外	・農家が多い地域では、景気は天候に左右される。当地域では猛暑により畑作に大きな影響が出ている。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前半は販売量の動きが悪く、前年比80%台前半の推移となった。お盆休みに入る頃から動きが良かったものの、前年実績までは届いていない。物価高の影響が客単価が落ちている。
		食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・販売量の前年割れに歯止めがかからない状況が続いており、3か月前と比べても若干悪くなっている。
		窯業・土石製品製造業（職員）	受注量や販売量の動き	・販売量は6か月ぶりに前年比微増となったが、依然厳しい状況である。
	x	輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・客先の動きが鈍い。この先一部に動きが出るとの情報はあるが、全体的に明るい状況にはない。
雇用関連（東北）		-	-	-
		人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・複数の業界で、求人媒体やハローワークを使っても応募が来ないという状況がある。各企業、業績は安定しているものの、人員が不足している。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求職者の登録数は前年と比べても余り変わらない。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数、求職者数に変化はみられない。
		アウトソーシング企業（経営者）	それ以外	・給与の増加に伴い社会保険料なども上がっている。結果、社員の手取りは余り増えずに会社の経費は増しており、客に値上げをお願いしているものの、なかなか厳しい。
		求人情報誌制作会社（経営者）	求人数の動き	・有効求人倍率、有効求人数に大きな変化がないことから、地域の企業活動が活発になっているとはいえない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・前月に続き、若干だが広告に動きがあり、売上は前年並みになっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比では伸びを欠いている。有効求人数は減少が続いている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同期比で増加している。ただし、米国の関税政策の影響で、一部の企業に受注量減少の動きが見られる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数を前年比でみると、直近3か月は落ち着いた動きになっている。
		その他雇用の動向を把握できる者	周辺企業の様子	・建設業など人手不足の業種では求人活動があるものの、卸売業や小売業などでは物価高による買い控えから従業員を減らす動きが見られる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・求人広告の掲載がなかったことに加え、広告の売上額も減少している。
		学校〔専門学校〕	求人数の動き	・学校の就職部門及び企業の人事部門における業務縮小の影響か、ここ数か月、求人数はやや減少傾向にある。
	x	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・8月に入り停滞感が強まっている。前年はお盆明け以降、求人数、求職者数共に増加傾向がみられたが、今年は求人数が減少し、求職者もフルタイムで働ける人が枯渇している。

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連（北関東）		-	-	-
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	販売量の動き	・暑いため、飲料品関係の売上が高まっている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・猛暑の影響で飲料や冷たい商材が好調で、販売数が増えている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・盛夏期のため、飲料単独購入客の増加で売上点数は前年を下回っているが、来客数は前年比104%と堅調である。加えて暑さが続くとの予報があり、観光客の利用に加えて飲料、酒、アイスなど、暑さで伸長する商品群の伸びが依然として期待できる。
		都市型ホテル（支配人）	来客数の動き	・この夏は沖縄や大阪に客が流れるとみていたが、宿泊部門は前年比125%くらいで着地し、やや良くなっている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・客が値段をうるさく言うことが少なくなってきた。
		タクシー（経営者）	お客様の様子	・月の初めより動きが良かったので、前年同月比で13%の増収となっている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・連日の猛暑の影響が商店街に人の往来が少ないと住民が話しているが、当店は冷やしメニューが好評で客足が伸びている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・諸物価が上昇するなか猛暑日が続く、来客数は依然として回復の兆しがみられない。最近、外国人経営の食品販売店が増え、外国人の往来が増えてきている。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・毎日の猛暑には皆諦めモードである。今月も値上がり、来月も値上がり、道行く人も少ない。涼しいスーパーの駐車場でも空いている。当分はこの状況が続く。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・前年を基準にした売上達成度で3か月前と比較すると2割ほどの減少となっているが、前年の売上達成度との比較では1割ほど上回っているため、景気はどちらともいえない。夏休み本番に想定より売上が伸びなかった要因として考えられるのは、大阪・関西万博、酷暑、クマなどの野生動物の出現などにより、当地が旅行先として選ばれなかったためだとみられる。また、道路や駐車場事情等、構造的な問題で、多くの観光客を受け入れられないためかとみている。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・米問題や原材料価格高騰による値上げが顕著だった5～6月よりは回復基調にあるものの、食品以外の購買意欲は完全には戻っていない。
		百貨店（店長）	販売量の動き	・売上は前年比では若干マイナスではあるものの、堅調に推移している。
		百貨店（店長）	販売量の動き	・物価高の影響があるものの、賃金の上昇もあり、選択的消費が進んでいるようである。本当に必要な物、欲しい物しか買わない印象もあるため、一進一退である。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・来客数は減少傾向にあるが、商品単価の引上げや購買点数の底堅さにより、売上全体としては増減なく横ばいで推移している。結果として、来客数減少の影響を値上げ効果で吸収できている。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・身体に危険な35度以上の暑い日が続いたことと、中心市街地の老舗スーパー閉店の影響により、来街者が激減している。当然、当店の来客数も減少している。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・前月は前年比では83%、今月は100%で着地する。内容的には、7月は季節商材が前年割れし、大きく足を引っ張ったが、今月は猛暑、酷暑が継続したため、エアコン中心に構成比の高い商材が好調であった。また、パソコン本体はOSサポート終了に向けた駆け込みの買換え需要が顕著に出ている。エアコンは前年比108%、パソコン本体は138%と伸びている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・この数が月、新車、中古車の販売台数が低迷して、整備などの売上が伸びている。整備売上の増加でバランスを取る状況が続いている。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・販売量は例年どおりだが、道路の交通量や人の出入りはやや少なめである。
		住関連専門店（仕入担当）	来客数の動き	・物価高、猛暑と消費減退の要素は何も変わらず、来客数、販売量共に前月と同様に厳しい状況である。
		一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・お盆休み明けの動きが鈍いが、予約はますます入っている。そこまで悪くはない流れだが、良いともいえない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	単価の動き	・主力の給食部門では、新年度の4月から、多くのクライアントに取引条件、食単価等の引上げを認めてもらえたため、月次の収支は改善が図られている。ただし、暑さにより食材の葉物や人参類が品薄となり、材料費は厳しい状況が続いている。
		旅行代理店（経営者）	それ以外	・8月は個人旅行が中心で団体旅行の動きは鈍い。
		旅行代理店（所長）	来客数の動き	・猛暑の影響は否めないが、夏休みの利用はほぼ順調である。
		旅行代理店（営業担当）	来客数の動き	・前月同様、大阪・関西万博に客を取られているのか、前年と比べて客足が鈍い。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・販売量が鈍化している。当社サービス解約申出の理由として、家計の見直しや料金の安い同業他社への切替えなどが挙げられている。高齢の顧客が多いため、物価高の影響は少なからずある。
		通信会社（営業担当）	単価の動き	・米価も若干の低下にとどまり、いまだ商品価格の高騰が続くなか、一般消費者には節約の状況が続いている。
		通信会社（総務担当）	販売量の動き	・毎月の販売数はこれまで変動があったが、今年4月以降は毎月ほぼ同数の販売が続いている。
		通信会社（局長）	単価の動き	・各品目の値上げ、猛暑の影響で野菜や米の価格に影響が出てきそうなので単価は下がらない。
		ゴルフ練習場（経営者）	来客数の動き	・生活に必要な全ての物価が上昇している。
		設計事務所（所長）	それ以外	・価格高騰は続いており、新たな政策の見直しも立たないため、変わるようにみえない。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	販売量の動き	・3か月前と比べても受注金額に大差はなく横ばいである。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・食品は、物価高に伴い客単価は上昇傾向にあるものの、購買客数がそれ以上に減っており、総体的には、マイナスの状況が続いている。非食品部門についても従前と状況は変わらず、生活防衛意識の高まりから消費には慎重である。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・来客数は前年並みも客単価が低下している。
		衣料品専門店（販売担当）	来客数の動き	・人の流れは幾分出てきている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・車両受注が減少しており、車両販売の売上も減少している。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・景気上昇が見通せないため、車の購入にお金を回せないと考えている人が多い。生活に必要な物をまず購入し、その上で余裕のある人くらいしか車のことは考えられないのではないかとみている。
		住関連専門店（店長）	販売量の動き	・来客数は前年より増えているが、買上点数や客単価が低下している。来店はするものの、買物をしない客や安い物しか買わない客が多い。
		一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	単価の動き	・来客数は変わらないものの、単価の低迷が続いている。物価上昇の影響は否めない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・8月はお盆の時期で、これまでの年では多少動きがあったが、今年は例年と違いタクシーの利用客は少なく、相変わらず自家用車での送迎が多い。暑いからか歩いている人がいない。夜や深夜の人通りもない。
		ゴルフ場（従業員）	単価の動き	・来場者数は前年を上回っているが、単価が追い付いていない。物価が上昇しているなかでも、プレー代の値上げは厳しい。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・金利上昇により住宅ローンが組みにくくなっている。また、建築費高騰のため予算をオーバーし、購入に踏み切れない客が増えており、成約に至らないことが多い。
	×	商店街（代表者）	それ以外	・猛暑の影響で客足が遠のいている。幹線道路上の橋の架け替え、区画整理の工事による店舗の移転、廃業など、良い要素がほとんどない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	販売量の動き	・この時期はエアコンが売れるため、売上としては上がるが、やはり一時期と比べて客は値段にシビアになっている。エアコン需要が終わった時点で売上は落ちると予測している。
	×	スーパー（商品部担当）	来客数の動き	・競合店の出店により、売上、来客数の落ち込みは予想していたが、猛暑の影響や価格高騰が更に追い打ちを掛けている。
	×	乗用車販売店（経営者）	それ以外	・米国の関税政策の不安定さがあり、悪くなっている。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・物価高騰に加え、暑さで外に出ない。お盆休みで帰省しても外食せず家に過ごす人が多い。
	×	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・猛暑やゲリラ豪雨などの天候要因、物価高騰、ガソリン価格高騰、米国の関税政策、大阪・関西万博など、複合要因により来客数が減少している。
企業動向関連 (北関東)		-	-	-
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・物価高騰が落ち着かず、食品中心に秋に向けて各メーカーから更なる値上げのアナウンスが発信されている状況のため、消費者の購買意欲は変わらず低迷している。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・猛暑のなか、従業員の健康を考えながらも、平常どおり稼働している。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・問合せ案件は比較的多いが、数字につながる状況ではなく、低迷が続いている。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比較して受注量は変わらず減少が続いており、景気は低迷している。中国向け製品は若干増産との情報もあるが分からない。中国の不動産バブルは過ぎたのだろうか。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・主要取引先などに特に大きな動きはなく、計画どおりに進んでいる。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・猛暑で水やお茶などの飲料、熱中症対策のファン付ベスト、エアコン、冷風機、スポットクーラー、サーキュレーター等の家電の輸送量は前年を10%程度上回っているが、その分、増車のコストも高騰し、利益は前年より少なくなっている。
		不動産業（管理担当）	それ以外	・猛暑による水道光熱費増加を見込んでいたが、徐々に進めてきた省エネ対策が奏功し、例年よりかなり暑く降雨も少なかったにもかかわらず、前年比微増で済んでいる。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・広告出稿は前年と変わらず、全く上昇する兆しが無い。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・地域の下請等中小企業では、自動車関連など米国の関税政策の影響は今のところ意外と顕著には出ていない。それより物価上昇などによるインフレの進行のために消費が盛り上がり欠け、生活用品の需要が伸びず、関連して物流業や物流資材関係の業況が停滞している。
		社会保険労務士	取引先の様子	・猛暑で外出が減少し、物価は上昇し続け、消費は低迷している。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・他の製造業と比較して、取引先も多く多品種少量生産が売りの当社で、ここまで各社共に受注が減少することはこれまでなかった。景気は下向きである。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・中断が徐々に減り、2～3か月先は前年と比べて1～2割落ちて、景気はやや悪くなる。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先の様子、競争相手の様子、受注量、販売量の動き等、全てが悪くなっている。
	×	金融業（営業担当）	それ以外	・中小企業においては人件費等のコスト上昇分を全額価格転嫁ができない状況が続いている。収益の改善がみられない。
雇用		-	-	-

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
関連 (北関東)		人材派遣会社 (経営者)	求人数の動き	・公共事業関係では道路工事や河川の護岸整備などの土木工事が出ている。建設関係では、住宅の修繕や屋根の葺き替えなどの需要がある。相変わらず人手不足のなか、夏休みということもあり、行楽地に足が向かっている部分もある。学生アルバイトは小売、販売を中心に活発に動いており、飲食ではファーストフード店の求人活発さがみられている。
		人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・求人数に対して条件に合う求職者が不足している状況は変わらず、仕事紹介の難易度が高い状況が続いている。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数は前年同月比で増加と減少を繰り返している。
		学校[専門学校] (副校長)	採用者数の動き	・各企業の採用状況を見ると、業界や企業によってかなりの隔たりがあり、多くの人数の採用数確保を考えているところもあれば、全く採用を考えていない企業もある。
		人材派遣会社 (管理担当)	周辺企業の様子	・物価高で、商材の増産等がなくなり、製造派遣依頼が少なくなっている。
	x	*	*	*

4. 南関東(地域別調査機関:株式会社日本経済研究所)

(- : 回答が存在しない、* : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (南関東)		家電量販店(店 長)	来客数の動き	・インバウンドの買上単価は低下している。低単価商材を複数購入する傾向になっている(東京都)。
		都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・ハイシーズンということもあり、見込みどおり3か月前より高単価で推移している。
		一般小売店[家 電](経理担 当)	来客数の動き	・例年8月はお盆が明けるとエアコンの売上が落ちるが、今年は例年になくコンスタントに売れている。
		一般小売店[祭 用品](経営 者)	来客数の動き	・夏のイベント真っ盛りで、そこそこ良くなっている。
		一般小売店[眼 鏡](経営者)	来客数の動き	・夏は日差しが強いと通常レンズのほかにサングラス用としてカラーレンズの2本が売れる。前年より来客数は減っているものの、高額商材が売れており、売上自体は前年並みである。逆にいえば、寒くなって通常レンズしか売れない時期を考えると、今から何かしなくてはいけない。
		一般小売店 [傘](店長)	販売量の動き	・男性用の晴雨兼用傘の動きが堅調である。
		一般小売店[生 花](店員)	販売量の動き	・7~8月はお盆で花の需要がとても多かった。余り見込んでいなかったが良い具合に売れて、仕入れと売上のバランスが良く、損をせずに済んだので、本当に良かった(東京都)。
		百貨店(総務担 当)	販売量の動き	・インバウンドは前年と比べてマイナス傾向だが、国内客の高額品売上が堅調に推移している(東京都)。
		百貨店(広報担 当)	お客様の様子	・インバウンドの消費は、横ばいではあるものの悪化はしていない。一方で、国内客向けの高付加価値消費は、宝飾、時計などの高額品を中心に緩やかに回復している。特に、当社が戦略的に関係性を深めている顧客向けの提案が刺さっている(東京都)。
		百貨店(営業担 当)	販売量の動き	・今月は、月初め及び中旬以降の猛暑の影響により、来客数は前年並みにとどまっているものの、売上は台風の影響を大きく受けた前年と比べ、大きく伸びている。消費意欲は高いが、価格を見る目は厳しく、儉約志向が続いている(東京都)。
		百貨店(営業担 当)	来客数の動き	・海外旅行客が減少し、前年割れから前年並みで推移していた国内客の来客数は回復基調に転じている。特に、婦人ボリュームファッションの動きが活発化している(東京都)。
		百貨店(財務担 当)	販売量の動き	・日経平均株価が過去最高を更新するなど、資産効果による消費マインドが上向き、販売量の増大に寄与している(東京都)。
	百貨店(企画宣 伝担当)	来客数の動き	・県独自のキャッシュレス決済キャンペーンが奏功し、60歳代以下の客の来店が増えている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（店長）	お客様の様子	・大人はゴルフやフィットネス、子供は体操教室や幼児学習等、習い事を始める人が増加している。
		スーパー（営業担当）	販売量の動き	・猛暑の影響で夏物商材の稼働が良く、販売量は上昇傾向にある。しかし、生活防衛意識がまだ強く、猛暑もあいまって来客数が減少している。野菜を中心とした食品全般の単価上昇が継続しており、この分が売上を押し上げている（東京都）。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・前年比でも売上が伸びているため、景気は若干上向き傾向である。
		コンビニ（従業員）	来客数の動き	・夏の市民プールの開催で、朝夕にプールに来る客で混んでいる。今年からプールのチケットがオンライン又はコンビニ発券となったため、チケットを発券する客も多く、ついでに飲食物を購入していく。今年は期間中1度ナイトプールも開催される予定で、新規客の獲得も期待している。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・客の購買意欲が高まってきている（東京都）。
		乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・半期決算に向けて新車、中古車への乗換え相談が増えてきている。
		その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	来客数の動き	・強力なヒット作がある映画が好調で、シネコンの集客が飲食店にも波及し、全体的に上向いている。一方、衣料品は猛暑が災いし、苦戦している。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・この暑さで来客数が増えている。当店はそばをメインにしているためではないかとみている。
		その他飲食[カフェ]（経営者）	来客数の動き	・猛暑のため、日中の客の流れは長時間続かないが、日が落ちてからの来客数が微増している（東京都）。
		その他飲食[カフェ]（経営者）	来客数の動き	・飲食店の店舗では横ばいだが、コーヒー豆のばい煎、販売をする別の地域の店舗は良くなっている。全体的に売上が伸びている（東京都）。
		その他飲食[給食・レストラン]（役員）	単価の動き	・前年度に行った価格転嫁交渉の改定分で原材料費、人件費等の今年度値上げ分を何とか上回りながら吸収できている（東京都）。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・夏休みで猛暑のため、避暑を求めた結果、屋内施設は活況を呈しているが、屋外施設は前年割れの動きも見えている。また、大阪・関西万博の影響でインパウンドが増えている（東京都）。
		タクシー運転手	お客様の様子	・お盆休みもあり、仕事は暇と思いきや、意外と利用があり驚いている。暑い日が続いているため、涼しいタクシーで移動する人が増えている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・有り難いことに、異常な暑さのために客がよくタクシーを利用してくれているが、景気が本当に良いのかというと不安なところはある。昼間ひどく暑い時間は利用客数が非常に多いが、夜になると完全に引けてしまう。生活環境が変わってきている（東京都）。
		タクシー運転手	お客様の様子	・今年も猛暑になり、短距離の客を中心に利用が増加している（東京都）。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・客の態度が前向きに見受けられる（東京都）。
		通信会社（社員）	お客様の様子	・酷暑も物価高も日常化しており、外出機会が減っているため、自宅でのプチぜいたくニーズが高まっている。OTT（配信サービス）の購入やスマートフォンのアップグレードなどへの消費が緩んでいる（東京都）。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・肌感覚では、前年と比べると動きは弱いものの、猛暑の割には客が動いている（東京都）。
		その他レジャー施設[ボウリング場]（従業員）	販売量の動き	・法人の予算が増えていると聞くことが多くなっている（東京都）。
		その他サービス[立体駐車場]（経営者）	来客数の動き	・近隣にスーパーができたものの、期待していたほど来客数増加にはつながっていない。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・新規案件の相談が入ってきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		住宅販売会社 (経営者)	来客数の動き	・当社は不動産デベロッパー業と総合建設業である。インバウンドを含めた観光用ホテルを扱っているが、インバウンドがかなり増えてきたため、ホテルの稼働率も今まで以上に上がってくる。一方、建設業では、材料費がかなり上昇しており、公共工事を含め、スムーズな受注ができなくなっている。
		住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・富裕層向けの展示会に出展したが、相談件数が多く、富裕層のアパート購入意欲は高い。
		住宅販売会社 (総務担当)	販売量の動き	・個人住宅は停滞から回復基調にある。また、富裕層の投資意欲はますます上昇している様子が見受けられる。
		一般小売店〔家電〕 (経営者)	販売量の動き	・悪い状態が長らく続いている。さらに、最近は商材の値上げが続いているために、多少は工賃を上げたいという話をしたら、逆にそれなら考えさせてもらうという返答をもらってしまっている(東京都)。
		一般小売店〔家電〕 (経理担当)	販売量の動き	・酷暑のなか、エアコンは出だしが早かったこともあり、今はぼつぼつと入っている程度である。祭りの電気工事関係も落ち着き、住宅省エネ補助金の申請準備に追われている。
		一般小売店〔家具〕 (経営者)	来客数の動き	・今月は夏休みやお盆とも重なり、暑さの問題もあって、来客数が非常に少なくなっており、景気は悪い。良くない状態が続いている(東京都)。
		一般小売店〔米穀〕 (経営者)	お客様の様子	・物価高のなか、単価は非常に上がっている。しかし、客によって慎重に考える客と、品質を求めて単価を気にせず買ってくれる客に2極化しており、良い面、悪い面の両方が出ている(東京都)。
		一般小売店〔文房具〕 (経営者)	来客数の動き	・前年同月と比較すると売上が20%程度増加しているが、3か月前と比較するとほぼ横ばいである(東京都)。
		一般小売店〔文具〕 (販売企画担当)	販売量の動き	・店頭販売は、値上がり激しくなっていることもあり、買上点数が極端に減っている。高額商材を売ったり、大型案件を入れたりするなどの企業努力で何とか通常どおりにばん回しているものの、なかなか厳しい。また、今月は外商の大型案件もやや少ない。
		一般小売店 〔茶〕(営業担当)	販売量の動き	・ギフト配送等の注文もあり、売上、来客数共に前年並みで推移している。
		一般小売店 〔茶〕(営業担当)	販売量の動き	・当社が販売している茶は、生活必需品ではあるが代替品もあり、好みの問題もある。食事や休憩時などに利用してもらっているが、最近は利用機会や若い人の好みなどもあり、余り売れず、現状維持が精一杯である。売出しでも以前のように売上は伸びない(東京都)。
		百貨店(売場主任)	単価の動き	・様々なイベントを開催しているが、猛暑が続いているため日中の外出自粛もあり、来客数減少の影響が出ている(東京都)。
		百貨店(総務担当)	販売量の動き	・前月、前々月と売上が減少したが、今月は持ち直した様子である。食料品の売上が前年を捉えてきたことが大きな要因である。6～7月はギフト需要の減少が影響した一方で、物価高による売上増加が影響している。8月はギフト需要が少ないため、数字上は戻ってきた感がある。暑さが原因とみられる来客数の減少傾向もみられる一方、物価が上昇しているため、売上はほぼ前年並みである(東京都)。
		百貨店(総務担当)	お客様の様子	・前年は一部フロアが改装工事中だったこともあり、来客数は前年を大きく上回っているものの、記録的な猛暑のなか、ファッションが苦戦しており、全体では厳しい結果となっている。来客数は増加しているものの、買上率が低下しており、買い回りを促進できていない。
		百貨店(総務担当)	お客様の様子	・訪日外国人の売上が伸びないなか、横ばい傾向にあるが、全体的な客の購買行動自体は平行線で落ち着いている。悪くはないが、決して良くなっていない。判断が難しい状態である(東京都)。
		百貨店(営業担当)	来客数の動き	・インバウンドの苦戦が続いている。特に宝飾、時計等、高額品の落ち込みが大きい(東京都)。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・為替やラグジュアリーブランドの値上げの影響でインバウンドが減少するなか、国内上位客を中心に購買が伸びている（東京都）。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・依然として中国を中心としたインバウンドが不振である。前年実績からの減少率について、少しは改善傾向もみえるものの、大勢は変わっていない（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・前年は台風の影響を受けたこともあり、それと比べると今年は多くの商材で前年を上回っている。しかし、食品などデイリーニーズの消費が先になる傾向は変わらない。猛暑による外出控えがありつつも堅調である。
		スーパー（経営者）	販売量の動き	・猛暑の影響で魚や野菜が非常に高値になっていること、他の商材も値上げで大分高くなっていることから、買上点数が減少している。当店のすぐ近くに競合店ができた影響もある。
		スーパー（経営者）	単価の動き	・買上点数は減少傾向だが、1品単価が上昇している（東京都）。
		スーパー（店長）	それ以外	・猛暑の影響により、夏物商材はほぼ売り切れているが、青果の相場高、米の高値安定等により、1品単価が高く、買上点数は減少傾向になりつつある。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数、買上単価は前年並みを維持しているものの、買上点数の前年割れが続いている（東京都）。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・見切りの物しか買わない、見切り品であれば何でも構わないという買い方をする客が増えている。
		スーパー（仕入担当）	お客様の様子	・旧盆に帰省した家庭が多かったようで、ごちそうメニューの動向が良かった。ただし、生活必需品の値上がりは続いており、最上級の商材の動向は悪く、販売量も減っている。新型コロナウイルス感染症発生前のお盆の水準には戻らない。
		スーパー（食品担当）	単価の動き	・景況感は変わらないが、商品単価が上がっているため、当店舗及び全店の売上は前年を上回っている（東京都）。
		スーパー（販売担当）	来客数の動き	・旧盆期間は良い動向だったが、その後は財布のひもが固い。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・飲料系やアイスクリームなどの氷系の商材しか売れず、それ以外の物には手をささないため、販売量が少なくなり、売行きが落ちている。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・7～8月は客単価、来客数共に伸びず、前年より1割弱売上が落ち込んでいる。気温が高過ぎるため、日中の来客数が伸びず、商品価格も高いため、客離れも若干起きている（東京都）。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・高温が続いているため、飲料を中心として数字は好調である（東京都）。
		コンビニ（商品開発担当）	販売量の動き	・好天続きで飲料を中心に需要が伸びているが、気温が高過ぎて、その他の商材の売行きが余り芳しくない（東京都）。
		コンビニ（従業員）	お客様の様子	・来客数は変わらず、単価も大きく変わっていない。客とのコミュニケーションのなかでも景気が良いという話は余りない。もし景気が良いと感じていれば、少し高い物を手取るなど、購入する物も変わってくるのではないかと。当店では特に良くなる要素はないため、良くも悪くも変わらない。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・問合せは増えているものの、絶対的に必要な支出が多く、なかなか衣料品の購入まで至らない。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・着物事業において、新規客のパロメーターである浴衣の売上は、前年の70%である。集客催事は好調に推移し、当月の計画を上回っている。また、ドレス事業においては、価格改定等の実施効果が現れ、粗利率改善に寄与し、売上は横ばいではあるものの利益には貢献している（東京都）。
		衣料品専門店（役員）	来客数の動き	・猛暑で客が外に出てこない日が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・季節商材、特にエアコンは、6月に気温が高くなり例年よりも早く売れ始めて好調に見えたが、7月は例年より落ち込むなど、時期がずれただけで、景気が良くなっているとまではいえない。また、食品を始めとした物価上昇により家電製品の買換え時期がますます延びるなど、あるカテゴリー商材は良くて他のカテゴリーが良くないなどで、プラスマイナスゼロである。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・毎月のことだが来客数が伸びていない。ボーナス商戦も盛り上がっていない。時期的にエアコンは絶対必要だから売れているものの、他の商材の購入には慎重である。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・自動車の整備は順調に入っているが、販売は余り芳しくない。
		乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・猛暑が続いており、来客数は減少しているものの、新車の販売量は前年並みである。
		乗用車販売店（販売担当）	お客様の様子	・新車購入の際に、生活が苦しく維持費が大変だということで、今まで2000ccの車を買っていた客が1500ccや1000ccの車に、又は普通車から軽自動車にとように、今までの車よりも1ランク、2ランク落として購入する客がいる（東京都）。
		乗用車販売店（総務担当）	お客様の様子	・客の新車購入を控える動き、中古車市況の停滞が損益を苦しめている。
		その他専門店 [ドラッグストア]（経営者）	販売量の動き	・どうも景気が余り良くないようで、販売量の動きがやや鈍い。
		その他専門店 [貴金属]（統括）	単価の動き	・ここ数か月、販売数量は若干減少しているものの高単価商材の販売が増加していることから、景気はやや良い状態で変わらない（東京都）。
		その他小売[生鮮魚介卸売]（営業）	お客様の様子	・秋物商材も出始めているが、食料品全般の値上げ報道などの影響もあるのか、売行きは良くない（東京都）。
		高級レストラン（営業担当）	来客数の動き	・8月の実績は、前年比で売上84.1%、来客数90.1%、客単価は93.3%となっている（東京都）。
		高級レストラン（仕入担当）	来客数の動き	・景気が悪化している印象は受けていないが、上向きになった様子もない。よくいえば好調を維持している（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・当社の業態の特徴として、気温が高い季節の方が売れるため、今夏のような猛暑はそうでない年より好調である。一般の業種の景況感とは異なる点がある。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・夏休みということもあり、人の流れが増えている。7月はやや落ち込んだものの、8月は5～6月の数字に戻ってきている。大型コンベンション施設の稼働、スポーツ関係の団体、人気テーマパークの客など、夏休み特有の団体客や個人客でにぎわっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・インバウンド需要と共に客単価が高くなっている（東京都）。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・貸切りバス、宿泊を中心に料金が高騰しているため、旅行計画自体を縮小する団体が増えているものの、実施数は大きく減少していない。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・航空代、宿泊代共に供給の減少により間際の予約が取れない。暑さの影響で水族館等の屋内オプションは売れているが、マリナクティビティ等の屋外オプションが全く売れない（東京都）。
		タクシー（団体役員）	来客数の動き	・前月に引き続き、酷暑による需要はあるものの、深夜帯の乗客は相変わらず少ない。
		通信会社（経営者）	販売量の動き	・今月は機器の受注及び工事等が増加傾向に至っていないため、変わらない（東京都）。
		通信会社（社員）	お客様の様子	・CMの引き合いが続いている。成約に至らないものも多いが、引き合い数は増加傾向である（東京都）。
		通信会社（局長）	販売量の動き	・暑さのため営業部員が能力を発揮し切れていないことによる契約数減少は若干あるものの、客自体は過去3か月や前年同月比でも余り変わっていない（東京都）。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新規加入、コース変更共に無駄を省き必要最小限の内容を選択する意識は相変わらず強い。
		通信会社（経営企画担当）	お客様の様子	・案件不足の状況が続いており、3か月前と余り変化がない（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（営業担当）	それ以外	・仕入先でのいろいろな物の値上げが止まらない（東京都）。
		通信会社（管理担当）	販売量の動き	・成約数が計画に達していない（東京都）。
		通信会社（管理担当）	それ以外	・B to Bは堅調だが、B to Cは物価上昇に伴う個人消費の低下もあり若干鈍っている。結果として変わらない（東京都）。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・前月と比べて余り大きな変化はない（東京都）。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・大きな変化はなく、景気の影響はない（東京都）。
		パチンコ店（経営者）	来客数の動き	・夏を境に人の流れが活発になっているが、消費者の実質賃金が依然として上がらず、物価上昇に歯止めがかからないため、余暇にかかわる消費は引き続き振るわない。
		その他レジャー施設〔映画〕（営業担当）	来客数の動き	・企業業績や株価が安定している（東京都）。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・今月の販売量は目標数字の約100%となり、景気はどちらともいえない。3か月前と比べても約91%と、変わらない。住宅総合展示場への来場者数減少を実感しているが、住宅相談窓口からの紹介が非常に増えており、目標数字を達成できている。地方のハウスメーカーや建築会社倒産のニュースも多く見かけるようになり、大手である当社への安心感が販売量につながっている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・このところの猛暑がかなり影響している。11時から午後3時頃までは商店街の人通りがかなり少なくなってしまうている。買物に出るのは朝1番か夕方という人が多い。
		商店街（代表者）	それ以外	・今年の猛暑は、屋外型の商店街、商業地の当地では直接的な影響を受けている。最高気温が35度を超えると客の絶対数が減る。クレジットカードの取扱は何とか持ちこたえているが、飲食はかなり悪い（東京都）。
		一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	来客数の動き	・暑過ぎるため、やや悪くなっている。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	販売量の動き	・夏季休暇が長かったことに加え、今年はひどい猛暑で、外に出て買物をする客の姿が余りみられず、非常に残念な結果となっている。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	来客数の動き	・猛暑の影響か、店の前を歩いている人の数が少ない。
		一般小売店〔乳業〕（経営者）	単価の動き	・当店も8月から価格を改定した。これから更なる影響が予想される（東京都）。
		一般小売店〔書店〕（総務担当）	それ以外	・仕入先のサービスが低下している。今までは仕入先の無償サービスで賄えた業務が、有償でも依頼できなくなったため、こちらが行わざるを得ない。人件費が余計に発生し、例年より利益が減少している（東京都）。
		百貨店（管理担当）	販売量の動き	・物価の上昇や猛暑などにより、消費意欲が減退している様子が見受けられる。新しい試みへの反応も余り良くない（東京都）。
		スーパー（ネット宅配担当）	来客数の動き	・来客数の微減が続いている。気温が高いため、日中の客が少なく、夕方だけでは取り返せていない。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・今夏は気温が高過ぎるため、昼間の来客数が激減している。
		コンビニ（経営者）	それ以外	・仕事に慣れた社員やパートが次々に退社し、人手不足が急激に進む危機的な状況で、解決策が見いだせない。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・商材の値上がりにより客単価が上がっているものの、来客数は減っている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数的には夏が最も多い時期ということにはなっているが、やはりこの猛暑によって特に昼間の来客数が減っている。また、買上点数も物価高により0.5ポイント程度減少している。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・8月は天候不順と酷暑のため来客数、売上共に前年比3%減少しており、やや悪くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前年と比較して店舗周辺のイベントが少なく、イベントがあってもお盆時期の開催であったため、来客数が伸び悩んでいる（東京都）。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数の動きが落ち着いてきている。8月はお盆の時期だが、帰省や旅行が分散しているため、3か月前と比べると余りお金を使わなくなっている。
		衣料品専門店（統括）	来客数の動き	・気温が下がらず、お盆以降に売れるはずの秋物を求める客の来店が少なく、苦戦をしている。
		乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・新車の販売価格がどんどん高くなっているため、買えない層が出てきている（東京都）。
		乗用車販売店（営業）	お客様の様子	・8月ということもあり、来客数が大幅に少なく、稼働も少ないため、販売量が減っている。
		その他専門店 [ドラッグストア]（経営者）	来客数の動き	・暑過ぎて客が来店しない。
		その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	お客様の様子	・物価高が重しとなり、購買意欲以上に不安が先行している。経済対策も打っていないため、非常に厳しい（東京都）。
		高級レストラン（経理担当）	来客数の動き	・猛暑のため、客は外出を控えている。特に、ピヤガーデンなどの屋外イベントは著しく客足が鈍い（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・毎年のことだが、3か月前と比べるとやはり8月は売上が落ち、客足も遠のいてくる。今年は特に暑さが厳しいため、客が余り外に出たがらず、売上が15～20%落ちている。ケータリングもこの暑さでほぼゼロに近いので、その分の売上も落ちている。合計ではふだんの月より30%くらい売上が落ちている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・酷暑により外出が減っているのか、夏休みで郊外に行く人が増えているのか、全体的に来客数が落ちている（東京都）。
		その他飲食[居酒屋]（経営者）	来客数の動き	・夏休みでレジャーにお金を使う人が増えたため、飲食店に行く回数が減っている（東京都）。
		旅行代理店（経営者）	単価の動き	・諸物価の上昇とともに、あちこちで豪雨災害などが発生しており、日々の生活にも大変な思いをしている。とにかく物価の上昇が1番大きな問題である。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新規サービスの契約数が前年と比べて大幅に減少している。加入者からは、より低価格なサービスへの変更を希望する問合せが多い。
		通信会社（経理担当）	お客様の様子	・食品の値上がりや気がなるという声が多く聞かれ、支出に慎重な客が増えている。
		ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・猛暑により来客数が前年比3%減少している。売上は県独自のキャッシュレス決済キャンペーンのお陰で前年比15%程度は増加しているが、既に反動減の兆しもある。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・今年も記録的な猛暑で、ゴルフをするには危険な暑さになっており、ゴルフ場にとっては厳しい。来年以降もこうした状況が続くものとみられる。
		その他レジャー施設[総合]（経営企画担当）	来客数の動き	・猛暑による支出増加や外出控え、7月に災害が発生するという海外発の噂や猛暑によるインバウンド減少により、来客数が若干減少傾向にある（東京都）。
		その他サービス[保険代理店]（経営者）	販売量の動き	・客は決められた物以外、購入しない。また、前年と同じ物に固執する傾向にある。
		設計事務所（経営者）	それ以外	・記録的な猛暑のなかで、近隣の現場は余り動いていない。営業に回ることができず、猛暑が経済に大変影響している。当社でももう動くことができない。こうしたときこそ何か考えていかなければならない。
		設計事務所（経営者）	競争相手の様子	・計画していた契約が先延ばしになっている。
		設計事務所（職員）	それ以外	・受注は前年比では下回っている。物価上昇は小康状態のように見えるものの、市況は活発ではない（東京都）。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・客の動きが鈍い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	販売量の動き	・建材需要が上向き気配はなく、一定水準を超えない（東京都）。
	×	衣料品専門店（従業員）	来客数の動き	・まだ続く物価高と異常気象の影響で、来客数が前年と比べて2割程度減少している。現状では洋服にまでお金が回らないため、かなり厳しい。
	×	一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・暑過ぎる。この暑さが続くと、ランチにも出ないし、夜もどこかで飲んで帰ろうという話にならない。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・今年は猛暑で、ランチも午後1時半を過ぎると客足が途絶えてしまい、かなり早い時間に客が入らなくなっている（東京都）。
	×	ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・猛暑の影響を多大に受けており、3か月前の来場者数と比較すると13%の減少で、集客面で非常に苦戦している。屋外型の施設としては、猛暑対策を模索しているものの熱中症の危険もあり、対策の効果は薄い。
	×	ゴルフ場（経理担当）	来客数の動き	・8月においても、前月に引き続き猛暑の影響が顕著であり、週末、祝日を含む稼働率は40%にも達せず、著しく低迷している。酷暑下におけるゴルフプレー忌避傾向は顕在化しており、収入ひっ迫の影響は甚大である。乏しい来場者数に加え、来場者が会員に偏っているため、収益性の確保は困難な状況にある。さらに、物価上昇と実質賃金低下を背景に生活防衛の意識が強まり、ビジター客の高額レジャー消費の抑制傾向は一層顕著となっている。加えて、とどまるところを知らぬ物価上昇は営業コストの累増を招き、収益創出を著しく困難にしており、事業継続性そのものに深刻な課題を突き付けるに至っている。
企業動向関連		*	*	*
(南関東)		出版・印刷・同関連産業（経営者）	それ以外	・少しずつではあるが、受注率が向上してきている。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・印鑑、ゴム印、名刺印刷の仕事をしている。店頭売りやインターネット販売も若干ある。例年8月は暇であるが、今月は珍しく会社設立印の注文が6本あった。それとは別に、手持ちの実印や銀行印なども7本抱えており、6～7月と比べると上向いている（東京都）。
		精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前月よりも受注量が減っているが、約1週間工場生産がストップしているため、稼働日数に対する生産量は増大している。
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量は変わらないものの、やはり物価高がかなり影響しており、厳しい。
		輸送業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・配送コースの見直しと運賃の値上げにより、経費の減少と収入の増加があいまって、収支が改善し始めている（東京都）。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・販売量が減っていないため、底堅い需要がある（東京都）。
		不動産業（従業員）	受注量や販売量の動き	・宿泊需要は引き続き堅調である（東京都）。
		広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・要因は定かではないものの、やや良くなっている（東京都）。
		税理士	取引先の様子	・普通預金の利息で金利の上昇を感じるようになり、株価は高値で安定している。最低賃金の引上げで中小企業の価格転嫁が懸念されるが、おおむね順調の様子である。政府の減税や給付の決定が遅れているが、さほど問題はなさそうである。米価も新米の供給が順調で安どしている。今後は猛暑による作物への影響が心配である。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	取引先の様子	・仕事の依頼が増えているが、単価の引上げは難しい（東京都）。
		その他非製造業〔商社〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・大型案件を受注している（東京都）。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・祭りは前年より良かったが、猛暑のために日中の入出がなく、来客数が減少している。夏物商材をそろえても、客が少ないため、売上につながらない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		繊維工業（従業員）	受注量や販売量の動き	・引き続き2025年秋～冬の企画や2026年春～夏の状況が不透明である（東京都）。
		出版・印刷・関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が少なく、相変わらず景気が悪い（東京都）。
		プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量共に8月としては平年並みで、大きく変わっていない。
		プラスチック製品製造業（経営者）	取引先の様子	・既存製品の受注量に大きな変化はないが、新企画の立ち上げが全てのクライアントで先送りにされており、生産活動が安定しない。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3か月前も悪かったが、当月も変わらない。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・お盆休みを挟んでいるため正確なところは何ともいえないが、受注量は通常どおりである。
		電気機械器具製造業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・A I関連事業の受注拡大と半導体大口価格の安定で、業績的には良い状況だが、従業員の景気としては大きな変化はない。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・米国との関税交渉も決着し、自動車メーカーも今後の対応について検討を開始している。現時点では変化はない。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・価格が高止まりしており、物が売りにくい。
		建設業（経営者）	取引先の様子	・消費意欲が低下している。
		輸送業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・繁忙期のピークが過ぎ、物流量は落ち着いている。人件費、燃料費の高騰が続き、収益が見込めない。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・閑散期のため物量が少ない。また、燃料価格の高騰が現在も続いており、収益が伸び悩んでいる。
		金融業（総務担当）	取引先の様子	・製造業では、特に自動車部品関係は米国の関税政策の影響があり、受注が減少傾向にある。不動産業では、土地の仕入価格が高止まりしている上に資材高騰が続いているため、販売価格が高騰し、売行きがやや鈍っている。家電販売業では、エアコンが好調であるが、取付け業者の人手不足もあり、追い付いていない。観光業関連では好調が続いている（東京都）。
		金融業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・製造、建築関連は、受注状況がほぼ横ばいと、依然として低調な推移となっている。特に、製造業関連では、通常であれば年末にかけての受注見込みがみえてくるこの時期になっても先行きが不透明とのことで、今後の動向を不安視する声が多く聞かれる。過熱していた不動産関連もやや落ち着きつつある。
		不動産業（経営者）	競争相手の様子	・景気の動向は変わらない。高層マンション建設により日当たりが悪くなる賃貸物件3軒のうち1軒は更新があり、転居費用が掛かるし便利な場所なので辛抱するとのことである。残り2軒がどうなるか心配しているが、高層マンション完成まで様子見とする（東京都）。
		不動産業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・工事費、人件費の高騰が続いているが、販売価格、賃料は高値で取引されており、利益は維持されている（東京都）。
		不動産業（総務担当）	取引先の様子	・オフィス賃貸業は変わらず好調で、新規入居希望テナントの問合せが増えている。賃貸料についても多少の値上げは理解してもらえるようになっている（東京都）。
		税理士	それ以外	・夜に駅まで歩きながら商店街の飲食店をのぞくが、新型コロナウイルス感染症発生前と比べると、以前は結構客入りがあった店でも入っていない。中には客が入っている店もあるが、全般的には入っていない（東京都）。
		社会保険労務士	取引先の様子	・返済不要の助成金を希望する会社が多く見受けられる（東京都）。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・飲食店等で、暑さなどが影響して来客数が減っているところがある。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・値上げ交渉が進んでいない（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費意欲の減退がやや見受けられる（東京都）。
		食料品製造業（経営者）	競争相手の様子	・同業他社との情報交換のなかで、値上げによって売上は確保できているものの、それ以上の原価高騰や、採用コストも含めた人件費負担の増大など、経費の増加による利益の減少が顕著になってきている（東京都）。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・業界のデータでは生産量が2年連続で減少しており、底が見えない。生産量が落ちている分、発注量も減り、当社の生産量も前年より下がっている。
		通信業（広報担当）	受注量や販売量の動き	・一進一退の状況から弱含みへと、悪化してきている（東京都）。
		金融業（支店長）	取引先の様子	・中小企業は人材確保のための人件費増大、資材費及び燃料費の高騰で経営難の企業が多い。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・中小製造業、特に金属加工などでは、機械関係の大手企業の2次下請の傾向が強く、1～2年先の見込み受注として受けることが多いため、米国の関税政策や米中の貿易摩擦の影響によるしわ寄せが、1～2年後に大きく来ると想定されている（東京都）。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・取引先工場の稼働率停滞のため、物の動きが悪い。価格競争も激しく、受注量が落ち込んでいる。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・全体的に受注量が減ってきている。
	x	出版・印刷・同関連産業（所長）	受注量や販売量の動き	・お盆休みもあって動きが鈍く、案件の引き合いが激減している。
	x	広告代理店（経営者）	取引先の様子	・繁華街の飲食店のうち高級業態や居酒屋などでは、8月は予約が入りにくく、空席が目立つ状態が続いている。店舗側からは焦りの声も多く、来月以降の予約状況も芳しくないと聞いている。現地を訪れても、例年と比べて人通りが少なく、猛暑による外出控えに加え、インパウンドの鈍化や大阪・関西万博などでの他エリアへの関心の移行も影響している可能性がある（東京都）。
雇用 関連 (南関東)		-	-	-
		人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・社会課題解決型の需要が旺盛である（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・3か月前の5月と比べると、9月末の契約更新に伴う他社派遣スタッフとの入替え枠や増員枠の依頼が増加傾向にある（東京都）。
		人材派遣会社（支店長）	それ以外	・派遣、人材紹介依頼数は堅調だが、企業ニーズにマッチする人材は奪い合いのため、依頼数に比例した成約数を達成しにくくなっている（東京都）。
		人材派遣会社（支店長）	求職者数の動き	・傾向に余り変化がない。
		人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・若干の改善がみられるが、おおむね横ばいの範ちゅうといえる（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・製造業からのエンジニアの派遣引き合いはやや減少しているように見えるものの、下期に向けた中長期的な案件の話もあり、上向きか下向きか計りかねる。8月の長期休暇の影響も考えられるため、複数月での観察が必要である（東京都）。
		学校〔大学〕（就職担当）	求職者数の動き	・企業の採用活動は活発だが、夏季休暇中で求職者の動きが見えにくい（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・米国の関税政策の影響で先が見通せないとのことで、特に、製造業で採用を控えたり派遣を終了させる企業が出てきている。
		人材派遣会社（社員）	それ以外	・物価の上昇が止まらないが、給与水準は変わらない（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・8月は求人及び求職者からの依頼がとて少ない（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・毎年8月は夏季休暇もあり、各企業からの求人数が減少する。今年も例年同様に落ち込みがみられ、大きな影響はないものの、3か月前と比べると減少している（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		求人情報誌製作会社（広報担当）	採用者数の動き	・人員は足りていないが、採用人数を増加するに見合った業績を上げられていないため、採用人数を絞る方針になっている（東京都）。
		求人情報誌製作会社（営業）	求人数の動き	・夏休みと暑さもあり、求人控えが増えている。
	×	求人情報誌製作会社（経営者）	周辺企業の様子	・倒産や廃業する取引先が増えている（東京都）。

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (甲信越)		その他専門店 [酒]（店長）	来客数の動き	・3か月前と比べて8月は長期休暇もあるため当然売上が伸びるが、特筆すべきは、長いお盆休みの後の月末まで売上が伸びていたということである。単価が上昇している上で、そのような現象が発生した。
		遊園地（職員）	来客数の動き	・お盆期間は好天にはならなかったものの、花火イベントやアニメ企画の実施に加え、新エリアのオープンが集客に寄与し、好調な推移となった。
		その他サービス [葬祭業]（経営者）	お客様の様子	・今月は葬儀、遺品整理、仏壇の処分、墓じまいなど、まんべんなく依頼があった。
		自動車備品販売店（従業員）	お客様の様子	・前年と比べると来客数の減少傾向は続いているが、商品の値上げ前ということに加え、メンテナンス関連商材の販売も好調で、客単価が上がっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・前月から改善の兆しがみられるなかで、今月は更に改善、伸長する方向にある。長期休みの人が多いこともあるが、月を通して人の流れがあり、節約するというより消費に対する積極性がみられる。
		その他レジャー施設 [ボウリング場]（経営者）	来客数の動き	・記録的な猛暑により、室内で涼しく遊ぶことができるボウリングが選ばれたのか、家族連れや若者でにぎわっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・毎年のように夏はいろいろな行事を実施して客を集めており、若い人たちはかなり出てくるにはなったものの、買物は大型店に行ってしまう傾向にある。人出があっても売上にはつなげない。
		百貨店（経理担当）	お客様の様子	・8月の売上は、前年を超える見込みである。夏休み企画の催事が好調であったことが要因である。猛暑に伴い総菜や日配品も堅調に推移している。また、宝飾と外商法人にて大口取引もあった。ただし、いまだ世界情勢、物価高の影響は根深く、好転してきているとまではいえない。
		百貨店（店長）	販売量の動き	・残暑の影響で夏物消化にはプラスの状況であるが、想定範囲内であり、消費の勢いに加速はみられない。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・来客数が安定し、買上点数は前年並みのため、単価が上昇した分、売上が増加している。
		スーパー（経営者）	販売量の動き	・前年比では、売上は24%増加、来客数は2%減少している。4月以降は外販が増えたため、忙しくしている。この暑さからか、来客数は落ちているが、幸いなことに弁当の注文が多く入っており、今週末は大型イベントやサッカーで計198個の注文が来ている。来週も秋祭り、敬老会などの行事の注文があるため、しっかりと準備をしていきたい。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・買上点数が減少している。一度にまとめ買いして来店頻度を抑えているようで、大パックでのまとめ買い傾向がみられる。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・暑い日が続いているため、やはり冷たい物関係が相変わらず好調である。とはいえ前年より相当伸びているわけではないため、横ばいである。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・今月は残暑があり、季節商材、白物家電が好調に推移している。ただし、来客数は前年割れである。
	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・高価格帯の新車に対して客の購入姿勢が慎重になっている。新型イベントがないことも販売鈍化の一因である。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・7～8月はイベントや夏休み、お盆などで人の動きは多いが、そういった動き以外は変わらない、あるいは控えている傾向にある。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・良くも悪くもなくそれほど変化もない。いろいろな食材が値上がりし、価格に反映させ続けているが、それで悪くなることもない。楽といえば楽である。
		観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・今年の8月は創業以来過去最高の売上となっている。要因としては人件費や物価の高騰分に加え、今まで宿泊業の過当競争で価格を上げられなかった分を見直して料金を上げたため、宿泊人数は変わっていないが、売上が大幅に増加した。しかし、隣接している有名観光地はそれ以上に価格を上げているため、繁忙期限定であるが、まだ価格を上げる余地はありそうである。ただし、最低賃金の上昇が厳しいため、人件費が高騰しており、思ったよりもうかっていない。
		タクシー運転手	販売量の動き	・今月の売上は前年比で83%前後となっている。退職者が多く、新しく入社する運転手が少ないことから夜の乗務員が減っており、昼間の売上は相応にあるものの、夜間の客の多くを断っていることが原因である。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・エリア開局はある程度予定どおりの進捗ではあるが、スタッフの減少もあり、思いのほか新規獲得が遅れている。
		通信会社（社員）	来客数の動き	・猛暑のため外出を控えている状況は変わらない。
		ゴルフ場（副支配人）	単価の動き	・来場者は気候のためなのか増えているが、3か月前とは変わらない。景気が良くなったとはみていない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・7月に続いて猛暑のためか日中の人通りが少ない。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・連日の猛暑により、日中外出する人が減っている。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・立地的にお盆に客足が伸びない場所のため、お盆休みが長いと売上が伸びない。今年はお盆休みを長く取れる曜日並びだったため、かなり影響が出ている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数の落ち込みが著しい。暑さのためか歩いている客が少なくなっている。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・8月はお盆休みがあり、今年は長い休みが取りやすいということで、期待はしていなかったが、それ以上に余り良くなかった。商材は大分値上がりしているが、販売数が増加していかず、なかなか前年に届かない。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・サービス部門、車両販売部門共に目標を下回っている。車両販売に関しては人気車種のオーダーができないこと、全体的に物価高の影響で個人消費が低迷していること、そして何よりお盆休みが長すぎたことなどが影響している。
		旅行代理店（副支店長）	お客様の様子	・物価上昇に伴い支出を抑えているようで、夏休みの旅行も安近短や旅行自体の取りやめなどが増えている。
		観光名所（職員）	お客様の様子	・お盆休みの前半は天候も悪く、客足が遠のいたが、後半はまあまあ入込であった。登山ブームで登山客が多いがお金は落としていない。
	×	その他飲食[カフェ]（経営者）	単価の動き	・お盆だから人の動きはあるが、それでも少ない。
企業 動向 関連 (甲信越)		-	-	-
		*	*	*
		食料品製造業（営業統括）	取引先の様子	・一部のワインコンクールの入賞ワインは人気があるものの、8月31日で猛暑日が今年53日目と相変わらずの暑さが続いており、一般消費者の購買意欲は減退している。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・特注受注に加え、自家販売商品及びワークショップの予約数も増加している。
		電気機械器具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前とほぼ同じ状態で推移している。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・工事の受注量は増えており、工事単価も同一である。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・製造業は米国の関税引上げに対する不透明感がなくなったことで低水準ながらマインドは和らいでいる。非製造業は夏季の観光需要を中心に底堅い。
		金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・観光面では、インバウンド需要が盛況であるが、人手不足により受入れが難しい企業もある。
		*	*	*
	x	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・周囲の景気が悪くなっている。仕事量の確保が難しいとか休業を取り入れたという話を度々聞いている。
	x	その他製造業 [宝石・貴金属]（経営者）	受注量や販売量の動き	・お盆休み後に暑さが戻ってきたこともあり、店頭に来客数が少ない。また、暑すぎてジュエリーを身に着ける気持ちも薄れているといわれている。地金高騰の影響でどの会社も余り商品が作れておらず、新商品が少ないこと、また、客の予算は今までどおりのため、予算に見合う商品が提供できないことも仕入意欲が停滞している原因の1つである。
雇用 関連		-	-	-
(甲信越)		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人、月間有効求人共に大きな増減はないが、原材料価格の高騰、今後の最低賃金の引上げなど、厳しいと話す求人が増えている印象を受けている。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・求人をけん引する製造業において、現場技能求人はあるものの、開発など専門職の求人は採用基準が高く、充足していない。
		人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・人手不足のため、案件は変わらずにあるものの、条件等の出し渋りが多く、マッチングが難しい状況である。元々、人口減少があるなかで、働き手がいないため、今後ますます人手不足は大変な状況となる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・長引く原材料や光熱費の高止まりに加え、秋には最低賃金の引上げなどもあり、企業収益の見通しに不透明感が続くことから、求人数は減少傾向を示している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・7月の有効求人倍率について、当所管内では1.22倍と、前年同月比で0.09ポイントの低下となった。月間有効求人倍率が前年同月を下回るのは15か月連続となっている。
	x	-	-	-

6. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連		コンビニ（商品企画担当）	来客数の動き	・これまでの客単価の上昇に加え、比較的好大に恵まれたことから来客数も増加傾向にある結果、売上也好調に推移している。
(東海)		百貨店（総務担当）	お客様の様子	・6～7月は米国の関税問題などの影響を受けて消費マインドが下がり、富裕層の購買意欲も乏しく売上は芳しくなかったが、関税交渉に一定のめどが立ったことで客の購買意欲も良くなり、売上も回復基調である。暑さは来客数にマイナスであるが、帰省客などの来店がカバーした。
		スーパー（店員）	販売量の動き	・お盆前は天候不良で客足が遠のいたが、明けてからは来客数と購入量が増えた。特に野菜類が多い。
		スーパー（販売担当）	販売量の動き	・店舗を改装し、少し良い品物の品ぞろえも広がったため、売上、来客数が伸びている。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・前年より天候にも恵まれ、前年同月を上回る結果となった。希少なフィギュア玩具の限定販売や当たりくじ玩具など販売前から電話などで問合せが殺到する商材や、総菜コーナーの値引きキャンペーンを始めとする本部の販売促進施策が功を奏した。猛暑のため家から近いコンビニで買物を済ませた可能性もあるので、新規客を常連客にできるかどうかは、数か月の経過観察を要する。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・単価の動きが好調で、天候にも非常に恵まれた。この暑さでアイスクリームの動きが引き続き大変好調である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店 (売場担当)	販売量の動き	・平日はそれほど変わらないが、週末は単価の動きが良くなっている。買上点数も同様だが、単価の高い商品が動くようになった。セットで販売している商品の動きも良い。ノーアイロンシャツもよく売れている。
		家電量販店(店員)	単価の動き	・高単価なエアコンの売行きが良い。
		乗用車販売店 (営業担当)	来客数の動き	・販売台数は増えていないが、購入目的で来店する客が増えている印象を受ける。
		その他専門店 [貴金属](経営者)	来客数の動き	・前月までに比べ来客数、購買単価共に向上してきた。
		その他飲食[仕出し](経営者)	お客様の様子	・株価上昇などポジティブな要素は多いが、米国の関税など不確定要素もある状況で、良いのか悪いのかよく分からない。
		都市型ホテル (営業担当)	単価の動き	・レストランの予約人数、単価をみると15%ほど良くなっている。企業接待も増加傾向にある。
		都市型ホテル (総支配人)	来客数の動き	・6月以降、宿泊は動きが悪い。レストランは、猛暑の影響が客足が鈍い。
		旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・10月以降の旅行の受注が増えてきている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・客の動きは、以前は週末に多く週初めや週中の人出は余り期待できない状態だったが、最近は週初めでも人出が多いことがあるため、良くなっている印象を受ける。ただし、昼間の動きには変化は余りない。
		通信会社(営業担当)	お客様の様子	・来年度の予算取りは、前年よりやや多く取れている状況である。
		観光名所(案内係)	お客様の様子	・街中の飲食店では新規客が増えているが、一見客が多いようで、今のところ先の見通しまでは立っていない。
		パチンコ店(経営者)	販売量の動き	・8月は繁忙期のため、売上は上がっている。
		美顔美容室(経営者)	販売量の動き	・今月から自宅用ケア商品のキャンペーンセールを開始したため、セットでの買上が多かった。
		美容室(経営者)	お客様の様子	・暑さで来客数は減っているが、余りにも暑く髪が伸びて気になるからと、午前中に来店する客がみられた。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・週末はもちろん平日も相変わらずの人出で、昼食時はどの店も行列ができています。ただし、客単価はなかなか上がらない。
		商店街(代表者)	お客様の様子	・年々夏の暑さが厳しくなるなかで、街中の人通りはかなり減少しており、今月も前年と比べてやや悪くなっている。客は涼しい大型ショッピングセンターなどに行ってしまう。
		商店街(代表者)	お客様の様子	・商品の価格は上がってきているが、サービス業に関してはなかなか上げることができていない。
		一般小売店[土産](経営者)	来客数の動き	・猛暑日が続く、観光地では観光客が木陰を求めて右往左往している。冷たい飲物を提供する喫茶店が大混雑している。超異常気象である。
		一般小売店[生花](経営者)	お客様の様子	・来店してもみるだけの客が増えている。特にふだん使いの花に関しては、ホームセンターの値段と比べて判断している様子である。夏は日持ちが悪いため、安い方を選ぶようである。ギフト商品はコショウランがよく出ており、以前と比べて単価は上がっている。
		一般小売店[酒類](経営者)	来客数の動き	・今月は、特にお盆前は飲食店への来客数が少なく厳しかった。お盆明け以降はやや回復し、アルコールやソフトドリンクの販売にも少し動きがあった。
		一般小売店[生活用品](販売担当)	販売量の動き	・お盆休みの行楽や暑さの影響か、買物をする人が少ない。
		百貨店(経理担当)	販売量の動き	・猛暑対策グッズなどの服飾雑貨や休憩をかねたレストランの売上が好調で、不振が続くインバウンドの売上をカバーしている。
		百貨店(営業担当)	お客様の様子	・一般客の入店は変わらず好調であるが、買上率、買上単価共に下落している。一方、富裕層は変わらず買上意欲が旺盛で、売上の増加に貢献している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（販売担当）	単価の動き	・価格改定の影響はあったが、予想していたほどではなく購買意欲は安定している。高額品の稼働は良いが、価格改定で単価が上がったことに起因する。インバウンドは中華圏が減少傾向だったが、後半から増加した。
		百貨店（営業企画担当）	来客数の動き	・前年にあった台風や南海トラフ地震臨時情報発表の影響を加味して考えると、客の戻りが少ない印象を受ける。
		スーパー（店員）	来客数の動き	・競合店の閉店後、来客数が落ち着いてきた。
		コンビニ（企画担当）	販売量の動き	・前年は台風の影響を受ける日があったが、今年は天候の影響をほとんど受けなかった。多くの店舗が前年の売上を上回っている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・猛暑で来客数が落ちると予想していたが、お盆を中心に来客数は多く、例年を超える店舗が増加している。商品では、飲料や酒、麺類などの冷たい商材が前年と比べ好調であった。
		コンビニ（本部管理担当）	単価の動き	・今月の売上は前年比101.7%であった。一見好調に見えるが、来客数が前年比97.9%と減少している一方、客単価は103.3%と上昇していることで売上を維持している。売上の基本となる来客数が前年を下回っている状況は、3か月前と比較して好転しているとは言い難い。
		家電量販店（フランチャイズ経営者）	お客様の様子	・8月末になっても猛暑が続いている。夏が長くなったため、エアコンの販売期間も長くなっている。今年は台所等、今までエアコンなしで過ごしてきた場所への新規取付けが目立った。ただし、3年連続での猛暑のため売上台数は前年比では減少した。例年より少し良い程度である。
		家電量販店（営業担当）	販売量の動き	・暑さが続いているのに、今年はなぜかエアコンや季節商材の販売数が伸びない。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・新車価格や部品代の上昇のほか、様々な物の価格上昇などが要因となっている。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・物価高による生活必需品への出費が増え、抑えられる支出は抑えようとする様子が引き続きみられる。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・ここ数年、販売台数は前年並みで推移しているが、販売停止の車種が多く、かつてのような客が欲しい車を欲しいときに買う売り方から、買えるタイミングで一斉に注文する売り方になってきており、販売再開したタイミングで、こちらから提案して販売している。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・生活に関わる物価が上がり続け家計の負担が大きいところに、更にこの猛暑でますます必要な支出が重くのしかかっている。夏季休暇の過ごし方にも予算が取れる人とそうでない人の格差が現れている。もう少し社会全体に余裕がないと、新車市場はなかなか厳しい。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・物価高の影響を受けている。
		乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・全体的な動きは余り良くないが、アクセス数は多い。単価の動きを見ると少し下がっている印象を受ける。例年8月は余り動きのない月だが、それにしても厳しい。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・他メーカーも含め、全体的に新車の価格が上がっているため、中古車を探す客が非常に多くなってきている。中古車の在庫が足りなくなり、思うようには販売できていない。
		その他専門店 [書籍]（社員）	販売量の動き	・夏は休みが多いこともあり、販売量に伸びがみられない。
		その他小売 [ショッピングセンター]（経理担当）	来客数の動き	・夏休み等もあり来客数は堅調であったが、物価高騰は相変わらずで、9月以降も注視する必要がある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		高級レストラン（経営企画）	来客数の動き	・5月のゴールデンウィーク需要と同様に、お盆の営業は比較的順調に推移している。家族や友人等の集まりは底堅い一方で、平日夜の接待や会食は厳しい。税制改正による交際費限度額拡大の影響も限定的である。
		一般レストラン（従業員）	単価の動き	・米の価格が上がって、値上げせざるを得ない。
		観光型ホテル（支配人）	来客数の動き	・コロナ禍が明けて以降、緩やかに回復してきた来客数の伸びが鈍化し、今月は前年並みの水準にとどまる見込みである。
		旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・秋冬商戦に向けて宣伝はしているが、余り効果がない。大阪・関西万博も終盤で、年末年始の最大9連休にも期待しているが、動きが速い客層は既に夏前には契約済みで、旅行予約も2極化している。ファミリー層は、秋は学校行事が多くなるが、県民の日で休日のある11月下旬に期待している。
		旅行代理店（経営者）	それ以外	・タクシーは、乗務員の人手不足で利用客は以前のように手軽に利用できなくなったが、効率的な配車と運賃上昇で、本当に必要なときに必要な人が利用するようになっている。夜の利用も、利用時間帯が12時頃までに短縮している。
		旅行代理店（営業担当）	お客様の様子	・夏休みやお盆など長い休暇時間が取れる時期で、旅行者は増加している。一方、猛暑や豪雨などの自然災害による体調不良や人的・物的被害の発生により、旅行を控えたり取りやめる人も増えており、景気は横ばいである。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・新規契約数、解約数共に前月同様に低い数字となっている。前年を上回っているものの、余り良くない状況が続いている。
		テーマパーク（職員）	単価の動き	・予想していたほど値上げの影響による買い控えがなかった。
		テーマパーク職員（総務担当）	来客数の動き	・引き続き猛暑の影響を受け、月全体としては目標の入園者数には届かなかったが、お盆期間に限れば、臨時の夜間営業の実施により、期待値以上の集客と収益を得ることができた。
		ゴルフ場（経営者）	単価の動き	・物価の上昇は続いているが、価格転嫁が難しく利益が減少傾向にある。
		パチンコ店（従業員）	販売量の動き	・新しいタイプの機種の人気が乏しく、集客や売上に好影響を与えられなかった。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・客との会話では、暑さと物価高が毎回話題に上がる。消費者はとにかく物価が気になっている様子である。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・円安や物価高の影響で景気が良くない状態が続いている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・販売量は横ばいで、大きな変化はない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・自身の店舗の業績も余り良いとはいえず、取引先の飲食店や衣料品関係も同様に余り良くない状況である。
		一般小売店〔結納品〕（経営者）	単価の動き	・猛暑で商店街に人がいない。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・お盆前はそれほど悪くない印象だったが、お盆以降、特に20日を過ぎてからは、ほとんど涼みに来る客ばかりになった。目的があって来店するわけではなく、売場をぐるりと一周して店員と少し話して帰る人が多く、売上は厳しい状況である。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・猛暑の影響があるいは物価高の影響か、来客数がかなり減っている。必要な目的買いがより目立つ。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・前年にあった南海トラフ地震臨時情報の発表に伴う需要の反動減で、今年は食品を中心に落ち込みが激しい。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・前年は南海トラフ地震臨時情報の発表や停滞した台風の影響で水やお茶、レトルト食品、米の特需があったが、今年はなくなった。お盆も9連休で外出や外食が増えたためか来客数が減少したこともあり、売上が減少した。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（販売担当）	販売量の動き	・野菜の価格上昇と、相変わらずの米の価格上昇が買上点数の減少をもたらしている。電気料金やガソリン価格の高さも生活活動を抑制している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・物価高騰の影響で客単価は上昇しているが、来客数自体が前年比96%と厳しい状況である。
		衣料品専門店（売場担当）	お客様の様子	・以前は提案すれば購入した客も、最近は以前ほどの購入には至らず、買い控えの傾向が強くなっている。
		衣料品専門店（販売企画担当）	販売量の動き	・販売量が減っている。必需品である介護衣料品の注文が減っている。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・連日の猛暑で新規の来客数が減っている。冷房能力を超えた暑さのため、エアコンの不調を訴える客も増えてきた。工場も暑さ対策は行っているが、明らかに作業効率が落ちており、暑さに振り回されている。今まで余り注文がなかった駐車中にフロントガラスにつける日よけやサンシェードの注文が増えてきた。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・収入が上向くことはなく、支出が増えることが多いため、自宅で過ごし外出を控えている様子である。
		その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	販売量の動き	・ここ2年間ほど、何度か値上げを実施してもこれまでは販売量は大きく落ち込まず、売上と利益は確保できていた。7月以降、販売量が前年を下回り始め、値上げによる消費減退がみられるようになっている。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・3か月前は宿泊者数が前年比5～7%ほど多かったが、今月は前年より8～10%少ない数値にとどまっている。暑さの影響か、大阪・関西万博に人が流れているのかは不明だが、宿泊者数は伸び悩んでいる。
		理美容室（経営者）	来客数の動き	・例年8月は忙しい時期だが、今月は来客数が少なかった。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	単価の動き	・調達価格が上昇した影響で、レンタル事業の売上が伸びても、利益率が伸びない。
		設計事務所（職員）	お客様の様子	・客から景気が良くなるような話は聞かない。
		住宅販売会社（経営者）	単価の動き	・生活必需品が値上がりして生活に負担が重くのしかかっているため、住宅購入資金に回す余裕がなくなっている。
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	お客様の様子	・上限はあるものの補助金を使ったりリフォーム工事もあるが、建築材料の価格高騰により金額交渉に時間が掛かり、中には計画中止となる案件もある。建築費や人件費が下がる見込みはなく、ますます仕事を取りづらくなる。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	お客様の様子	・住宅展示場への出展を引き上げる企業が増えてきている。
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	単価の動き	・夏季休暇がどこの企業も長く、予想よりも伸び悩んでいる。
	×	スーパー（店長）	来客数の動き	・販売促進を強化するものの、来客数前年比を超えることができない。
	×	スーパー（店員）	販売量の動き	・猛暑の影響で帰省を控えたのか、ぶどうや梨など手土産用の果物の箱買いがみられなかった。豚肉の価格高騰による買い控えが特に顕著で、売上に響いた。
	×	コンビニ（店長）	来客数の動き	・今月は猛暑の影響で外出を控える人が多いようで、来客数が10%ほど減少した。
	×	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・連日の猛暑で日中は人の往来がない。パーゲンセールのポップを見て入店する人は、店内を一巡して何も言わずに帰る。セールだからとか半額だからと買う人は、一見客にはいない。
	×	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・猛暑により客の消費が鈍っている。生活必需品の販売は堅調だが、夏用の作業服やTシャツなど夏物商材の売行きが悪い。
	×	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・今月はお盆休みもあって稼働日数が少なかった。連日の猛暑の影響は避けられないが、それにしても客の動きが悪い。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・相変わらず具体的な景気対策がみられない。
	×	設計事務所（経営者）	来客数の動き	・本当に仕事がなくなっている。他事務所の手伝い程度の仕事しかない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	住宅販売会社 (従業員)	単価の動き	・新築住宅建設のように大きくまとまった金額の受注より、小さな金額のリフォームが多くなっており、より手間だけが掛かる工事が増えた。
企業 動向 関連 (東海)		*	*	*
		一般機械器具製造業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・米国関税の詳細が決定するまで待ちの状態だった反動で一気に動き出した半導体関連の設備投資は落ち着き、今月は平均的な受注金額に落ち着いた。
		輸送用機械器具製造業(品質管理担当)	受注量や販売量の動き	・生産計画上の生産数が増えている。
		輸送業(従業員)	受注量や販売量の動き	・連日の猛暑の影響を受け、飲料系の保管倉庫においては在庫入荷、在庫量共に例年より多くなっており、満床稼働となっている。
		金融業(従業員)	それ以外	・8月は夏休み期間のため人の移動もあり、身の回りの様子から景気が良くなっている印象を受ける。
		食料品製造業(社員)	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量共に大きな変化はみられない。
		化学工業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・生成AI向け電子材料薬品の好調が継続している。台湾、中国向けクリーン容器の輸出が好調である。
		化学工業(総務秘書)	それ以外	・暑い日が続くが、街では屋外でのアルコール飲料等を提供するイベントやスペースが増え、暑さに乗じての活気を感じた。
		窯業・土石製品製造業(社員)	受注量や販売量の動き	・夏季休業が9日間と長期であったが、休み中の出勤は特に必要なく、受注量が伸びていない。米国関税の影響を懸念して生産量を抑えている様子である。
		金属製品製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・仕事量の動きは見方が分かれているが、活発な動きにはならない点だけは、大方一致している。
		電気機械器具製造業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・余り良くなると見込める要素はない。
		電気機械器具製造業(企画担当)	受注量や販売量の動き	・将来に対する不安は大きくなるばかりだが、景気浮揚策は全く出てこない。株価が上がったとしても、しばらくは期待できない。
		電気機械器具製造業(経営者)	競争相手の様子	・客先業界全体で景気が悪くなっている。特にコロナ禍からずっと悪い状況で設備投資が減っているにもかかわらず、製造業者では競争が激しくなっている。部品代や製品価格を高くすると競争力が落ちて収益が下がる。一方、価格を低くすると売上額は減少する。競争力の高いところが1人勝ちするという一方で、メーカー業界全体として余り良くない状況になっている。
		輸送用機械器具製造業(管理担当)	それ以外	・米国の関税の影響が分からない。また、物の値上げが続くなかで猛暑により電気代も心配である。
		建設業(役員)	受注量や販売量の動き	・販売に関しては、物件価格が所得の10倍以上であるケースが目立つ。それでも夫婦で住宅のペアローンを組んで購入する客が増えている。とても豊かな人生を送れるとは思えない。
	建設業(営業担当)	取引先の様子	・物価高が続いているが、更なる値上がりで既に決まった見積りに対しては価格内に収まらない状況が発生してくる。物品高のためもうけが少なくなる状況が、同業者や工事関係者からもうかがえる。	
	輸送業(経営者)	取引先の様子	・米中との貿易に関わる企業やその取引先を中心に、荷量の減少がみられる。	
	輸送業(従業員)	受注量や販売量の動き	・月のなかで忙しい期間とそうでない期間がはっきり分かれてきている。忙しいときは車両の手配に苦慮しており、もう少しばらつきがあると有り難いが、まるで申し併せているかのように荷量が集中する。終わってみると、いつもどおりの売上に近い。	
	通信業(法人営業担当)	取引先の様子	・企業は、パソコンの現行OSのサポート終了や労働人口減少など様々な要因で、新しいAIシステムの導入を検討する機会が多くなっている。しかし、投資体力に自信がない、大規模システム導入後の運用人員がいらないなどの理由から、導入を見送りサブスクリプションサービスで場当たりの対応するケースが増えている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金融業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・仕入価格や人件費など原価が高くなってきているが、受注価格に十分転嫁できているとはいえ原価率が上昇傾向にある。受注価格にまで転嫁ができないと、景気が良くなっているとはいえない。
		不動産業（経営者）	それ以外	・例年よりも晴れの日が多く、暑い日も多いが外出や遠出をする人は増加傾向にある。今月の売上は前年を上回っている。
		広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・猛暑が続いているため、特に屋外イベントは人出が遠のいており、売上も厳しくなっている。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	それ以外	・賃金が上がっても社会保険料も上がり、物価の上昇もあり消費が冷え込んでいる。
		公認会計士	取引先の様子	・米国との関税交渉の合意により、製造業を始め海外との取引を行う企業については、緩やかに生産量が増加し売上等もやや回復している。個人消費についても、夏休みの影響もありレジャーや宿泊業などは3か月前と比べると売上などは回復傾向である。しかし、前年との比較では余り変わっていないことから、大幅な景気回復とは言い難い状況である。
		会計事務所（職員）	それ以外	・外食した飲食店は、それほど混んでいるわけでもなく、逆にがらがらというほどでもなかった。夏休みだから並ぶことも覚悟したが心配はいらなかった。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・世の中は景気が悪く、なかなか仕事につながらない。大手からの仕事も少なく、大変苦戦している。新商品の開発に力を入れている。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	受注量や販売量の動き	・連日の猛暑の影響による農産物や青果物の不作、諸物価の上昇、自動車関連の低調で全般的に荷動きが悪いため、景気もやや悪くなっている。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が落ち込んでいる製品があり、全体的に低調な状況である。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・8月は稼働日数の影響もあり若干減少しているが、販売量はほぼ横ばいであり、受注量にも変動がない。
		通信業（総務担当）	それ以外	・猛暑や水不足による米の作柄不良というニュースも段々と報じられるようになり、国民に危機感が始まった。将来への不安材料にもなるため、財布のひもを締めるようになる。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・消費者は物価が高く節約しないといけないため、景気が良いとはいえない状況である。経営者も賃上げをしなくてはならないため利益が下がっており、良い環境とはいえず、非常に苦しんでいる。
	×	鉄鋼業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年比10%ほど落ちた状況が継続している。
雇用関連		-	-	-
(東海)		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・夏季のイベントも大成功で、今期は求人数も増え景気が良くなっている印象を受ける。
		人材派遣業（営業担当）	周辺企業の様子	・景気の先行き不安から引き続き企業投資は停滞している。物価コストが増加傾向にあるため、各企業とも景気好転に向かうような動きは鈍化している。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求職者数、求人数共に変化はない。前月に続き、求職者側が好条件、高待遇な企業を選んでいる様子が顕著にみられる。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・当社への求人数は増えており、客からの引き合いは多い状態が続いている。
		人材派遣会社（営業担当）	それ以外	・物価上昇に賃金上昇が追い付いていない。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	周辺企業の様子	・自動車の国内販売については、当地域のメーカーは販売好調で一部車種が好調なメーカーや徐々に上向きのメーカーもあるが、輸出を含めた自動車生産においては、米国の関税の影響からか少しずつ減少しているようであり、今後の影響が懸念される。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	採用者数の動き	・企業が求める採用人数は取れていない。地元中小企業では採用コストも多く掛けられないため、望む人数が取れている企業は少ないように見える。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・米国関税政策の影響で雇用調整助成金の相談が増加すると予想していたが、相談件数は変わらない。自動車関連企業からは、ある程度の対策はしているため当面の影響はないという声が多く聞かれる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・3か月前と比較して、新規求人数は全体で5.7%増加した。産業別では、情報通信業、卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業、教育・学習支援業の新規求人数は増加、建設業、製造業、運輸業・郵便業の新規求人数は減少した。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・価格高騰や人件費増加が続くなか、現状維持で様子を見る傾向がある。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・求人倍率は前年同月比、前月比共にほぼ変わらない。
		民間職業紹介機関（営業担当）	採用者数の動き	・新規求人依頼は継続的に発生しているが、法人側の採用目線の引上げや一部求人への応募集中等といった状況は変わらず、採用決定者数に大きな変化はない。
		人材派遣会社（営業担当）	採用者数の動き	・求人数は若干減少傾向にあり、求職者数も減少しており、採用者数は減少している。
		人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・専門職の転職希望者は一定数いるものの、求人数が減っているためマッチング数も減少傾向にある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数を前年同月比でみると、総数、フルタイム・パートタイムはいずれも8か月連続で減少している。収益力の低下や売上の減少が続いているため、管内で複数の中堅企業が事業整理を行った。
	x	-	-	-

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北陸)		-	-	-
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・お盆における販売商品の動きが、新型コロナウイルス感染症発生前の水準に戻ってきている。
		スーパー（仕入担当）	販売量の動き	・来客数は微減しているが、食材の購入点数が増えており、内食需要が高まっている。また、即食商品や総菜関連が好調なことから、中食需要も伸びている。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・客は単価の上昇に慣れ、高単価の弁当や飲料などの売行きが伸びている。売上は前年比101%と微増しており、売上面は回復基調になってきている。事業所の景気という観点では、最低賃金引上げに伴う人件費、光熱費など相次ぐ経費の高騰から利益が年々減少している。10年前の経営水準に戻すには、更に客単価を上げていかないと経営ができない状況である。コンビニチェーン本部に粗利からロイヤリティを支払う事業形態であるため、売上が1.5倍程度上がらないと採算が取れない。本部の方は高騰する経費の影響は限定的で、かなり利益が出ているようである。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・近隣店舗の改装に伴い、一時的に来客数が増加している。物価の上昇に伴って客単価は上がっているが、買上点数が徐々に減っており、必要な物を必要なだけ購入する傾向が高まっている。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・セール品が好調に動いており、客が商品の価格に敏感なことが分かる。
		一般レストラン（統括）	お客様の様子	・お盆休みなどの長期休暇には帰省客と外食する機会が増え、8月は昼、夜共に人の動きが活発である。
		タクシー運転手	来客数の動き	・猛暑が続く、タクシーの利用客が多い。旧盆は帰省客が多かった。また、8月初旬には記録にないほどの集中豪雨で新幹線や在来線が止まり、タクシー業界は大変忙しかった。
		競輪場（職員）	販売量の動き	・今年は猛暑の影響で外出控えの動きが出ているが、既に自宅でも車券を購入できる販売形態を取り入れていたことが功を奏している。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・近隣の美術館で人気番組の企画展が開催され、若い世代を中心に街の人通り自体は多い。しかし、イベントが目的の来街者がほとんどで、そのにぎわいが売上に結び付いていない。また、記録的な猛暑と物価高による節約志向の影響は大きく、客の来店頻度や購買も伸び悩んでいる。結果として、期待していたお盆シーズンの売上は振るわず、厳しい状況である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		商店街（代表者）	来客数の動き	・8月上旬に最寄品店が開店し、来街者が多くなっている。例年この時期は帰省客が訪れ、秋に向けた買物でにぎわうが、酷暑と買い控え傾向のため、特に衣料部門で消費が鈍いようである。今後は飲食店の入替えが複数予定されているため注視したい。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	来客数の動き	・物価が上昇していることから、価格の安い商品の買い増しが多い。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・前年開催した2つの大型集客催事の実績が大きく、本年開催の代替催事ではカバーできず店全体では前年売上実績を割り込む見込みである。ただし、この特殊要因を除けば、高額品を中心とする外売上や秋物の新商品は好調で、店頭売上が前年実績を超えて推移している。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・猛暑が続いており、例年であれば8月の後半から秋物商材が動き始めるが、まだ動きが緩やかである。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・毎日の暑さと、景気の先行きに対する不透明感のため節約志向が強く、なかなか売上が上がらない。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・残暑が続いているが、季節商材以外の販売が厳しい。
		家電量販店（本部）	単価の動き	・前年の猛暑による反動減で季節商材の販売動向が厳しいものの、家電全体では堅調な動きをしている。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・新車の販売量がほとんど増えておらず、車検整備や修理の量が多くなっている。3か月前と状況は余り変わっていない。
		乗用車販売店（経理）	販売量の動き	・低価格帯の商品から高価格帯の商品まで、広く受注が取れている。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・長く暑さが続き、季節感が薄れていくなかで、これまでの商売の経験が生かせなくなっている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	単価の動き	・猛暑日が続き、夏物のセール期間が長くなっている。そのため、客単価の上昇はみられない。
		一般レストラン（店長）	来客数の動き	・お盆期間までは例年より来客数が多かったが、その後は例年並みで推移している。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・夏休み期間中は例年並みの集客ができています。
		観光型旅館（経理）	それ以外	・2024年1月1日に発生した能登半島地震以降休業しており、再開までにまだかなりの期間を要する。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・客の様子に変化がない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・観光客が増えている。引き続き団体客が多い。
		通信会社（職員）	お客様の様子	・客からの問合せ内容に変化がみられない。
		通信会社（役員）	それ以外	・米国の関税による影響はなく、株価高の効果もみられないことから、景気は変わらない。
		美容室（経営者）	それ以外	・人手不足が深刻になっている。ここ3年は新卒の入社がなく、来春の入社予定もない。美容業界は人手が頼りで業務の自動化が難しく、現状では将来が見通せない。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・例年同様お盆までは客の動きが鈍く、問合せやイベント来場者が少なかったが、お盆以降は回復傾向にあり、前年と販売量は変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・資材価格及び人件費の高騰が住宅価格に影響し、契約数の減少と商談期間の長期化につながっている。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・建築資材の価格高騰や不安定な経済状況により、見通しが立たない。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	販売量の動き	・今月、来月も多品目で値上げがあり、客の買い控えが目立つ。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・高齢化によって購買意欲のある年齢層が減少していることに加え、最近の物価高や異常な猛暑などの影響で、客の購買行動が低調になっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（販売担当）	お客様の様子	・猛暑により一時低迷した来客数が、街の祭りやキャラクター催事などの実施で増加するが、主力の衣料品の売上には影響がない。セールが一巡し、手に取りやすい価格で夏の定価品を投入しているが、衣料品はどのカテゴリーでも苦戦している。外出需要が拡大するとの報道から期待していたが、バッグや靴などのトラベル雑貨も低迷している。客は、特に価格と本当に必要かどうかを吟味して購入する傾向が強く、消費マインドの低下が顕著である。
		スーパー（役員）	来客数の動き	・猛暑によって日中の来客数が減っている。朝と夜の来客数は増えているが、全体としては減少している。節約志向が強くなり、客単価は前年並みに推移している。来客数が減少していることを考えると、売上は伸長しづらい状況である。
		コンビニ（店舗管理）	それ以外	・売上自体はそこそこ堅調ではあるものの、大幅な最低賃金引上げや今年度の新米価格高騰は経営を大きく圧迫する。
		乗用車販売店（総務担当）	単価の動き	・売上は商品価格の上昇で一定程度確保できているが、中古車の数量と利益率が下がってきており、しばらくはこの傾向が続くとみている。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊部門、宴会部門、レストラン部門の売上が共に前年割れで厳しい。仕入価格が上がっているが、価格転嫁は限界である。客の節約志向が続いているが、コストパフォーマンスの良い企画は好調で、メリハリのある消費行動がみられる。
		都市型ホテル（役員）	来客数の動き	・ビジネス、レジャー共に国内個人客の予約が少なく、前年の稼働率を下回っている。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・猛暑の影響により営業活動に制限が出て、通信、放送サービス共に新規契約数が前年同期より下回っている。
		テーマパーク（役員）	来客数の動き	・前年にあった北陸新幹線の延伸効果や北陸応援割の反動と、今年の大阪・関西万博開催や猛暑の影響で、来客数の動きがやや悪くなっている。特に団体客、インパウンドの動きが鈍い。
		住宅販売会社（営業）	来客数の動き	・3か月前と比べて展示場への新規来場者数が減っており、商談客の創出に大きく影響している。
	×	商店街（代表者）	お客様の様子	・暑さのため、そもそも街中を歩いている客が少ない。また、物価高の影響からか1人当たりの購買額が減少しており、商店はダブルパンチの状態である。
	×	一般小売店〔事務用品〕（店長）	来客数の動き	・このところの暑さで日中の来客数が減っている。また、商品価格の上昇が続いているため、客は本当に必要な物のみ購入している。
	×	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・来客数が減っているが、成約数も確実に減少している。大手を含めて、業界内では全くと言っていいほど良い話を聞かない。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・客の年齢層が高い当店では、猛暑が続くと人の出入りが減り、大変厳しい。開店休業状態の日が数日あり、赤字となっている。他業種の経営者からも8月は景気が悪かったと聞いている。しかし、駅周辺などは若い人でにぎわっているようである。
企業 動向 関連 (北陸)		-	-	-
		電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・具体的な内容の新規品の引き合いが今までより増えている。また、既に見積書を提出している案件に関しても、今後の新規起工に向けた問合せなどが増加している。しかし、実際に目先の受注が次々と決定している状況ではない。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・電気工事において先日大型物件の受注があり、今期の受注目標金額をほぼ達成している。人間的にこれ以上受注できない状況である。
		通信業（営業）	受注量や販売量の動き	・株価の上昇に比例して設備投資が好調に推移し、販売量も増加している。
		税理士（所長）	取引先の様子	・業種を問わず、原材料価格や人件費の高騰により粗利率が下がっている。ただし、価格転嫁ができているところは売上が上がっており、売上総利益の金額自体は、前期比で上回っている顧問先が多い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・能登半島地震で被災してから1年半余りが経過し、機能的に何とか復旧した形にはなっているが、被災前の売上水準にはるか及ばない状況がまだ続いている。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は変わらず推移している。
		輸送業（管理会計担当）	受注量や販売量の動き	・企業間物流の物量に変化がない。国際部門において米国の関税による影響は今のところない。
		司法書士	取引先の様子	・4月や5月の末日が事業年度である建設業の決算書を見ると、前年と比べて売上は落ちていないが、利益が減少している。
		繊維工業（総括）	受注量や販売量の動き	・日米間で関税合意がされたが、関税引上げの影響については、現時点で正確には見通せていない状況である。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・7～8月は令和7年3月期の決算発表や開示がピークを迎え、業績についてはおおむね増収減益の取引先が多い。いずれも仕入価格の高騰や人件費を中心とした経費の増加により、利益率が悪化していることが要因である。受注環境は悪くないものの、利益の確保に難航している。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・個人客から活発な話を聞くことがほとんどない。
		x	-	-
雇用 関連 (北陸)		-	-	-
		*	*	*
		人材派遣会社（役員）	それ以外	・当社から派遣している派遣労働者数が3か月前と変わっていない。
		新聞社〔求人広告〕（営業）	それ以外	・新聞広告の出稿量はここ20年ほど下降傾向にあり、その傾向から大きく上向いても下向いてもない。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・求人数が増加し求職者数は減少しているなかで、高齢者が物価高を理由に積極的な求職活動をしている状況に変化はない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求職者数、紹介件数、就職者数に大きな変化はないが、有効求人倍率が前年同月比で徐々に下がり続けている。人件費、原材料費、燃料費、水道高熱費の高騰などが影響している。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・合同企業説明会における参加企業数は前年と同様に多く、求人数は若干増えている。しかし、参加求職者数が減っていることから、マッチング成立が難しい。
		x	-	-

8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (近畿)		都市型ホテル（フロント）	来客数の動き	・大阪・関西万博の影響が大きく、終盤に向けてかなり予約数が伸びている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・酷暑のなか、大阪・関西万博の開催や夏休みで、大阪への人出が増えており、タクシーの利用率も上がっている。
		一般小売店〔化粧品〕（経営者）	お客様の様子	・4月から6月まで低調であった売上も、7月にやや回復の兆しがみられ、8月に入って更に回復している。都心店舗の売上は前年比で約5%増え、郊外店舗でも2%増となった。来客数はやや伸び悩んでいるものの、客単価が順調に伸び、インバウンド、国内消費共に微増となった。気温が上昇するなか、紫外線対策素材や初夏からの肌のダメージを回復させる素材に伸びがみられるほか、高機能の高額素材の動きが増えている。
		百貨店（企画担当）	販売量の動き	・3月以降、特選ブティックなど的高額品の売上が落ち込み、免税売上の苦戦が続いていたが、8月は高額品の売上にやや回復傾向がみられる。また、株価の上昇もあり、国内売上も高額品が好調となっている。ただし今月の好調は、前年の8月が株価の急落で良くなかったという特殊事情もある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（広報担当）	販売量の動き	・前月には減退が懸念された国内客の購買意欲が回復している。前年の第1四半期がピークであった免税売上の悪化も落ち着き、今年は前年並みに回復した。前年は月末に台風の影響で落ち込んだため、その反動増も加わり、百貨店事業の売上は久しぶりに前年を上回っている。
		百貨店（商品担当）	販売量の動き	・インバウンド消費の下げ止まりに加え、国内消費も前月までに比べれば、持ち直した印象を受ける。
		百貨店（管理担当）	お客様の様子	・イベントなどの催事が好調で、レストランの売上が前年比で2けた増となっているほか、食品やファッションフロアへの買い回りも顕著にみられる。
		百貨店（宣伝担当）	来客数の動き	・例年の夏休みよりも、国内外共に来客数が非常に多く、大阪・関西万博の効果をここへきて実感している。特に、子供連れの家族客が目立ち、雑貨や食料品、レストラン街の売上が好調である。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・大阪・関西万博も終盤になり、来場するインバウンドが増えているため、夜8時以降は来客数が10%ほど増えている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・夏祭りなどで繁忙期に当たるため、販売量は増えている。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・来客数は前年割れとなっている一方、物価の上昇で、客単価は上昇傾向にある。それに伴い、一定の売上はみられるものの、利益は減少している。
		コンビニ（店員）	単価の動き	・暑い日が続き、休日の昼間の来客数は減っているが、早朝や夜間の客は多く、何食分も弁当をまとめて購入する客が多くみられた。その一方で、外国人客は相変わらず多い。
		乗用車販売店（支店長）	それ以外	・平均株価が4万3000円を超えるなど、好調に推移している。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	単価の動き	・ふだんの来客数に、お盆の帰省客や大阪・関西万博を訪れたインバウンドが加わった影響で、客単価が前年比で100円近く上がり、来客数も増えた。また、新型コロナウイルス感染症の流行拡大などで、衛生関連商品の売上も伸びている。
		旅行代理店（役員）	販売量の動き	・最大で9連休となったお盆休みの影響もあり、間際の需要が伸びた。また、猛暑による外出減少の反動もあり、10月以降の予約がテーマパークを中心に動き始めている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・夏休みに入ったほか、暑さの影響もあって、駅では近距離の利用が増え、回転率も良くなっている。走行中も配車アプリからの予約がかなり入っている。
		通信会社〔貴金属オークション〕（経営者）	単価の動き	・前月に続き、貴金属関連の相場が高値を維持している。
		通信会社（役員）	お客様の様子	・携帯電話やスマートフォンなどの端末販売が、前年比で増加している。
		競輪場（職員）	単価の動き	・今月の客単価は9356円と、3か月前の8640円を上回っている。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	販売量の動き	・運営している住宅展示場での成約数は全体的に増加傾向にあり、特に資金が潤沢な60代以上のシニア層の成約が大きく増えている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・猛暑で午後からの人出が減っており、単価も上がらない。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	単価の動き	・朝から異常な暑さが続き、人出は予想したとおり、やや少なくなっている。その一方で客単価はやや高めの推移となったため、最終的に売上は落ち着いた動きとなった。今月の動きで目立ったのは、暑さで傷んだ時計のバンドを交換する動きであり、ささやかな猛暑の恩恵となっている。
		一般小売店〔野菜〕（店長）	お客様の様子	・安い物しか売れず、野菜の価格も少しでも上げれば買い控えが出る。
		一般小売店〔菓子〕（営業担当）	販売量の動き	・夏季休暇が終わり、その反動での受注の増加が期待できるが、猛暑の影響で販売量が伸び悩んでいる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・インバウンド売上が前年の好調の反動で悪化する動きは一段落し、前年並みの動きとなりつつある。その一方、国内客の動きは2極化しており、高額品の購入客は前年並みで推移する一方、一般客の売上は回復しないままとなっている。
		百貨店（外商担当）	それ以外	・来客数に減少傾向はみられないが、売上は前年を僅かに下回っている。猛暑や残暑の影響で、富裕層の来店頻度も減少傾向にある。
		百貨店（販売推進担当）	お客様の様子	・来客数が増えて販売単価も上昇しているが、買上率は前年を下回り、売上も前年並みにとどまっている。物価の上昇に対して、消費者が商品を厳選して購入する傾向にある。
		百貨店（営業推進担当）	販売量の動き	・来客数に大きな変化はないが、販売量がやや減少傾向にある。
		百貨店（売場マネージャー）	来客数の動き	・景況感を左右する大きな変化はないが、商圈的には他の地域よりも景況感が余り良くない状況にある。夏休み期間で、消費がモノではなくコトにシフトする傾向があったことも響いている。
		百貨店（マネージャー）	来客数の動き	・猛暑の影響もあって、来客数の前年比は5月に比べて0.8ポイント悪化した。客単価は上がっているものの、特に暑さの厳しい、13時から16時頃の来客数が減っており、売上に少し影響が出ている。
		百貨店（外商担当）	販売量の動き	・春先からのインバウンド売上の減少が、売上全体に響いている。ただし、インバウンド売上の減少幅は小さくなっているほか、国内の富裕層による高級品の需要も好調に推移している。
		百貨店（サービス担当）	お客様の様子	・今月も連日の猛暑で、UV対策商品の帽子やグローブのほか、接触冷感の機能性素材のTシャツやパンツを中心に盛夏商材が好調となり、前年の実績を大きく上回った。ただし、前年にインバウンド消費が活況となった反動減が大きく、売上全体は約8%減となっている。
		百貨店（マネージャー）	お客様の様子	・全体的な国内中間層の動きに変化はなく、慎重な消費が続いている。夏休みやお盆に伴う需要で、行楽用の夏物衣料や化粧品、レストランへの需要に加え、持ち帰りでの総菜需要が好調に推移している。また、大阪・関西万博のグッズを中心としたキャラクター催事が全体を押し上げ、売上は数%増となっている。さらに、インバウンド消費も空港での国際線就航による影響で、消耗品売上や来客数が70%増となり、売上全体でも40%増に転じている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・必要な物を選んで購入しているようにみえるほか、近隣の競合店と使い分けている。
		スーパー（店長）	それ以外	・全体的な物価の上昇で、消費は横ばいか増加傾向にある。ただし、販売店の売上は伸びているものの、景気が良いとはいえない。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・店舗の改装以降、直近の3か月を含めて来客数に変化はない。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・前年8月は南海トラフ地震臨時情報の発表や、台風の接近に伴う備蓄特需が発生し、売上が急伸した。今年はその翌年に当たるため、前年比での数値は悪化している。実質的な動きは判断しにくいものの、猛暑や物価の上昇による消費マインドの低下や、食費の節約ムードに変わりはない。
		スーパー（販売促進担当）	来客数の動き	・前年は大型台風の接近に伴う食材のまとめ買い需要があったため、その反動で前年比では販売量が伸び悩んでいるが、2年前と比べればそれほど落ち込んでいない。来客数も横ばいで推移している。
		スーパー（企画）	単価の動き	・ガソリン減税の原資がないため、自動車所有者に対して新税が検討されるような状況では、景気は変わらない。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・大阪・関西万博の開催効果は続いており、来客数が高水準で推移している。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・インバウンド効果が少し出ている。
		コンビニ（店員）	販売量の動き	・来客数、売上共に大きな変動はなく、横ばいの動きが続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ(店員)	来客数の動き	・まだ暑い日が続いており、冷たい物が売れている。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・来客数は3か月前と変わらないが、単価が下がっているため、売上は減少傾向が続いている。前月からの酷暑の影響で、ジャケットを中心にスーツの売上が減少している。
		家電量販店(企画担当)	来客数の動き	・連日の猛暑で、昼間の来客数の落ち込みが大きく、売上に大きな影響が出ている。特に、エアコンの販売が目標をかなり下回っている。
		家電量販店(営業担当)	お客様の様子	・GX志向型住宅の補助金の受付終了や、申請がうまくいかなかった影響などで、当初の予定が変わった客が出てきている。
		乗用車販売店(経営者)	お客様の様子	・少なからず自動車に興味のある客が動き始めている。
		乗用車販売店(営業担当)	販売量の動き	・中古車オークションの出品成約率、落札率共に悪く、市場では様子見の動きが続いている。
		その他専門店[医薬品](管理担当)	販売量の動き	・カウンセリング化粧品を中心に、スキンケア用品やUV関連、制汗剤などの化粧品や化粧雑貨が好調であった。一方、食品や日配品などの生活必需品は横ばいで、医薬品や健康食品、衛生用品は減少が続いている。3か月前と比較して客単価は上昇しているものの、猛暑の影響で来客数が伸びない状況が続いている。
		その他専門店[ガソリンスタンド](経理担当)	販売量の動き	・ガソリンの販売量は前年比で微減となっているが、お盆の前半の天候悪化によるもので、特に景気の動向に影響を受けたものではない。
		その他専門店[宝飾品](販売担当)	来客数の動き	・夏休み期間となり、大阪・関西万博に向かう国内外の観光客が街にあふれているが、新規の来店客、購入客共に、増える兆しは全くない。
		その他小売[インターネット通販](オペレーター)	販売量の動き	・法人による大量注文が減少している。
		その他小売[ショッピングセンター](総括)	来客数の動き	・来客数は前年並みに戻ったものの、高額品の動きは厳しい。
		一般レストラン(企画)	販売量の動き	・売上の前年比はほぼ横ばいであるが、来客数は微減となっており、客単価の上昇で売上を支えている。当社店舗はロードサイドにあるため、大阪・関西万博の影響はプラスともマイナスともいえない。
		一般レストラン(店主)	それ以外	・物価の上昇による、原材料価格の上昇に苦慮している。
		その他飲食[洋菓子](管理担当)	来客数の動き	・猛暑のなかで、駅構内は空調もなく非常に暑いので、通行者は足早に通過している。また、駅周辺の工事による、人の動線の変化も悪影響となっている。
		その他飲食[自動販売機(飲料)](管理担当)	単価の動き	・値上げは相変わらず続いているが、客の雰囲気に変化はない。
		観光型ホテル(経営者)	来客数の動き	・大阪・関西万博が開催中のため、関西圏内からの個人客の利用が減少したほか、お盆休みの先行予約も鈍かったが、間際予約の急増によって計画を上回る来客数を確保できた。また、当地域では台風や大雨による影響もなかったことが、プラス要因となっている。
		都市型ホテル(客室担当)	単価の動き	・大阪・関西万博による影響が大きいものの、インバウンド需要は減少気味である。
		都市型ホテル(管理担当)	お客様の様子	・インバウンド需要は好調であるが、国内客の需要には増加がみられない。
		通信会社(社員)	販売量の動き	・通信会社が事務手数料を値上げしたことで、他社からの乗換え客が純減となっている。
		通信会社(社員)	販売量の動き	・夏枯れ状態で加入数が伸びておらず、酷暑の影響で消費も低迷している。
		競艇場(職員)	販売量の動き	・3か月前ほどではないが、ネット投票の売上が前年を上回り、お盆期間の来客数も前年比でプラスとなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		美容室（店員）	販売量の動き	・トリートメントなどのメニューに関して、客が少し控える傾向が出始めている。
		住宅販売会社（経営者）	単価の動き	・地価は高水準での推移となっており、今のところは価格調整が入る気配もない。
		住宅販売会社（経営者）	単価の動き	・販売量に大きな変化はないが、建築コストの緩やかな上昇が続いている。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・新築分譲マンションは、都心の物件は買換え需要もあって売行きは良いが、郊外の1次取得者向けの物件は販売現場への来場者数が少なく、苦戦するケースが増えている。
		住宅販売会社（企画担当）	販売量の動き	・高額物件の受注件数は底堅く推移している。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	お客様の様子	・大阪・関西万博の盛り上がりや、インバウンド消費の好調により、足元は堅調な経済環境が続いている。不動産の購入の動きも続いており、高額物件を中心に一部では過熱感もみられる。
		その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	販売量の動き	・8月の決算が固まり、売上目標を無事に達成することができた。ただし、好調であったのは首都圏であり、関西は前年比で95%にとどまるなど、景気が良いのは首都圏だけとなっている。
		商店街（経営者）	来客数の動き	・猛暑のため、来客数が減少している。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	それ以外	・商品価格を上げたにもかかわらず、売上は5%減少している。
		一般小売店〔書籍〕（管理担当）	来客数の動き	・大阪・関西万博が閉幕に向かう雰囲気が出ている。開幕当初に発売されたガイド本の売上が落ち着いている。
		百貨店（商品担当）	お客様の様子	・株価は上がっているが、先行き不透明感は強く、美術工芸品などの高額品需要は低調である。インバウンド消費も不調が続いており、高級ブランドの売上は減少している。一方、大阪・関西万博関連の商品は売上が大幅に増加しており、その影響で来客数も前年を少し上回っている。さらに、物価の上昇でギフトの解体セールなども好調であるが、全体への影響は限定的である。
		スーパー（店員）	単価の動き	・猛暑の影響で価格が大幅に上昇したほか、仕入れも余り入ってこないなど、かなり厳しい状況となっている。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・前年は南海トラフ地震関連の騒動で、水や米といった保存の利く商品の販売が一気に増え、例年の売上を大きく上回った。今年の売上は前年を大きく下回る予想であったが、今年も米不足で備蓄米の販売もあり、米の売上が大きく伸びたため、売上の減少幅が小さくなっている。
		スーパー（社員）	販売量の動き	・競合スーパーやディスカウント店が増えるなか、来客数は減少傾向にある。何とか客単価を高めるための対策を実施しているが、商品価格の上昇が客の買い控えにつながり、販売量や売上が伸び悩んでいる。
		スーパー（企画）	販売量の動き	・お盆は曜日並びが良く、好調な結果となった。特に、米の入荷が安定しており、売上を押し上げている。一方、気温が高すぎて客が外出を控えているため、購買行動にも影響がみられる。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・食品や飲料などは、できるだけ安い店で購入する動きがみられる。
		コンビニ（店員）	来客数の動き	・今月は少し来客数が減ったようである。暑さや夏季休暇の影響もあるが、特に昼間の時間帯は、少し余裕のある状況となっている。
		コンビニ（店員）	来客数の動き	・命の危険を感じるほどの猛暑で、来客数が激減している。1番暑い13時過ぎから16時の時間帯の入出は、今までにないほど悪い。どの店舗も同じ状況のため、仕方ないと捉えている。
		衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・物価が上がっているため、単価の低いセール品などは動いているが、客からは洋服の購入などを控えているという声もある。
		家電量販店（経営者）	来客数の動き	・暑すぎて来客数が減っているため、案件の見込み客が減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・物価の上昇やエネルギー価格の高騰で、消費マインドが低下している。必要最低限の商品しか購入が見込めないなか、早急な政策対応が求められる。
		家電量販店（人事担当）	来客数の動き	・猛暑日が長引いていることで、外出自体を避ける傾向にあり、来客数が減少している。一方、気温の高い状態が続いているにもかかわらず、エアコンなどの季節商材の売行きは厳しい。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・仕事はあるものの、人手不足が深刻で、売上の増加につながらない。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・中古車の販売は目標台数を上回っているが、新車は下回る見込みである。新車はここ数か月、厳しい状況が続いている。インパクトのある新型車の発売がなく、メーカーによる販売促進策の不足といった要因もあるが、来客数の減少や商談回数の伸び悩みなど、客が購入に消極的である点は否めない。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・物価上昇の影響が、自動車の購入に当たったの2極化の動きがみられる。富裕層の購入ペースに大きな変化はないが、中間層以下の購入ペースが伸びない。また、乗換えに際して、新車の購入を選ばないケースが散見される。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	販売量の動き	・販売量が徐々に落ちている。物価の上昇で全体の消費が減っているほか、米価格の高騰や肉類価格の値上げで、量販店では巻きずしなどのメニューも減っており、それによる販売量の減少もみられる。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・異常な暑さと大阪・関西万博の影響により、特にランチでの来客数が減少している。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・取引先との契約金額は何とか維持できているが、値上げによって販売単価が上昇していることが要因で、量的には減少傾向にある。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・パンダがいなくなったほか、暑すぎて海のレジャーが避けられているため、来客数が減っている。
		観光型旅館（経営者）	それ以外	・大阪・関西万博の影響で、周辺のホテルや施設への入込は15%ほど減っている。
		都市型ホテル（客室担当）	単価の動き	・高額での販売に陰りがみられ、価格を下げて販売せざるを得ない。また、客室の狭さがネックとなり、海外の客から選ばれにくい状況である。
		旅行代理店（支店長）	お客様の様子	・余りの猛暑で、計画していた旅行そのものをやめる客が増えている。今後も湿気と暑さが尋常ではない状態が続けば、ますます外出を控える動きが増える。予約状況は良いようにみえても、キャンセル率が上昇している。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・原材料価格の上昇や人件費の増加で、利益が圧迫されている。
		通信会社（営業担当）	来客数の動き	・商業施設に入っている店舗の来客数が減少している。また、新規の契約数にも今月は特に停滞感がある。
		テーマパーク（職員）	単価の動き	・ふだんの生活の中で、全ての商品の価格が高騰している。ただし、賃上げがその動きに追いついておらず、政府による賃上げの要請も効果が薄いため、生活は苦しくなる一方である。
		観光名所（企画担当）	来客数の動き	・大阪・関西万博の開催による影響が出ており、特に日本人客、それも近畿圏内からの客が大きく減少している。
		遊園地（経営者）	来客数の動き	・大阪のレジャー施設は大阪・関西万博と競合関係にあり、その影響を受けている施設もあるため、全体的に勢いが弱い。
		その他レジャー〔スポーツ施設〕（業務担当）	単価の動き	・施設の運営管理業務では、今夏の異常気象が経費や原価の高騰につながっている。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	来客数の動き	・今年のお盆は9日から17日までと期間が長く、来場者の増加に期待していた。ただし、9日から11日は天候が悪く、それ以降も猛暑が続いたことで、外出の減少につながっている。また、大阪・関西万博に人が流れる傾向は続いており、その面でも苦戦している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	それ以外	・標準的な世帯では、物価の上昇で消費が減少している。
	×	一般小売店〔ガラス細工〕（店長）	お客様の様子	・食料品価格や、公共料金の上昇ばかりが報じられ、購買意欲が減少している。
	×	一般小売店〔呉服〕（店員）	それ以外	・着物を販売しているが、暑すぎて浴衣すら売れない。
	×	百貨店（売場主任）	単価の動き	・郊外店である当店の来客数は、27日現在で前年比2.2%減と厳しい。特に、生鮮3品の単価下落の傾向が著しく、精肉では低単価の鶏肉や豚肉が好調な一方、特に単価の高い黒毛和牛が苦戦している。消費者の節約志向が顕著であり、今後もこの傾向が続くと予想される。
	×	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・暑さの影響もあるが、前年よりも来客数が30～40%減少している。来店に結び付ける方法を考え、安心してお金を使える環境を整えることが重要である。
	×	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・暑さの影響もあるが、物価の上昇で消費意欲が低下し、極端に来客数が落ち込んでいる。
	×	住関連専門店（店長）	お客様の様子	・企業関連の案件が著しく減少しており、客単価も下がっている。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・インバウンドは以前よりも少し増えたが、限度を超えるような猛暑の影響が、日常的な宴会の需要が予想以上の大幅な減少となった。また、忙しい日とそうでない日の差が大きいほか、猛暑や天候の影響による仕入価格の変動も大きく、対応が難しくなっている。
企業 動向 関連 (近畿)		*	*	*
		食料品製造業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・大阪・関西万博の影響もあり、好調に推移している。
		食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・猛暑日が続いており、飲料の一部に欠品なども出たが、売上はやや良くなっている。大阪・関西万博の開催により、外国人観光客が増えた影響もある。
		電気機械器具製造業（経理担当）	取引先の様子	・設備投資意欲が回復してきたが、価格競争はまだ続いている。案件の取り合いに勝てなければ、業績が急激に悪化する可能性がある。
		輸送用機械器具製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・受注内容が、補給品や修理を中心とした注文から、新規の設備関連に移行しつつある。
		建設業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・建設コストが高止まりしているが、発注者もある程度は受け入れざるを得ない状況が浸透している。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・ターミナル駅を中心に、どの店舗も売上はおおむね好調となっている。ただし、外国人観光客が多い割に、利用は飲食店のみで物販店舗の利用は少ない。ここ数年の傾向である、体験型観光の増加による影響が出ている。
		その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・食料品を始めとする多くの商品価格の上昇により、一般的な商品の荷動きは低位で安定しているものの、イベント需要は大きく伸びているため、全体的には数字が伸びている。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・月末になると、取引先が在庫調整を行う動きがみられる。
		出版・印刷・同関連産業（企画営業担当）	受注量や販売量の動き	・引き続き、問合せは順調にきているが、受注量に変化はない。
		窯業・土石製品製造業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・物価の上昇や円安基調が続いている。当社は米国の関税引上げによる影響を受けないため、大きな変化はないと予想される。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・8月は異常な暑さが続き、夏休みの関係もあって稼働率は悪く、荷動きも極端に悪くなっている。ただし、9月の受注内示は低水準ながら安定している。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月の景況感は良くなく、直近もこの傾向に変化はない。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	受注量や販売量の動き	・猛暑の影響もあり、エアコンの店頭実売は堅調に推移しているが、冷蔵庫や洗濯機などの大型家電の荷動きは、前年を下回っている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・お盆休みの前後でも、案件の問合せ状況には大きな変化がない。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・猛暑による生産性の低下のほか、働き方改革や人手不足の影響で、工期内のしゅん工が難しい状況にある。来年以降は、夏季の工事について、余裕のある工期の設定を求めたい。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・物価の上昇や光熱費の値上がりの影響とみられるが、リフォームを必要最低限に抑える傾向が顕著である。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・仕事量に大きな変化はないが、暑さによる社員の体調不良により、受注を少し控えている。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・家具の売上が落ちている。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の決算書や試算表によると、売上の状況に大きな変化はない。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・夏の暑さに葉物野菜の生育状態が左右され、価格に影響が出ている。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・交通関連広告が、大阪・関西万博の影響もあって好調に推移している。
		その他サービス業〔受託調査〕（調査担当）	取引先の様子	・大阪・関西万博による恩恵はないほか、米国の関税による影響も今のところはみられない。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・今年は梅雨明けが早く、気温が非常に高いため、夏物商材の販売時期が早まり、6～7月の売上が伸びている。
		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・お盆休みの関係もあり、生産量は前月比、前年比共に減少している。値上げも一段落したため、販売量が伸びれば利益は出る形となるが、プライベートブランド商品ばかりが売れており、ナショナルブランドの販売は減っている。
		繊維工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・物価の上昇で消費意欲が低下しているほか、値引きが当たり前になっていることで、利益が圧迫されている。催事ごとの販売額が減少しているほか、他社との競争激化による販売員1人当たりの売上減少もあり、経費率の上昇が進んでいる。
		化学工業（管理担当）	取引先の様子	・米国の関税による影響がどう出るかについて、見極めが求められる。
		プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・仕事の流れが悪くなっている。結果的に注文は出ているが、発注が遅いほか、少量で短納期の案件が増えているため、生産計画が立てにくい。
		その他製造業〔履物〕（団体職員）	受注量や販売量の動き	・コストの上昇が続く一方、市場の動きはかなり弱いなど、価格転嫁ができるような状況ではない。
		金融業〔保険〕（経営者）	取引先の様子	・物価の上昇による客足の悪化を耳にする機会が増えた。また、猛暑による影響も出ている。
		不動産業（営業担当）	取引先の様子	・店舗の空き物件が増えている。インターネット販売の増加で実店舗のニーズが少なくなり、賃料の低下や空室率の上昇につながるなど、景気が悪化している。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・小売業の取引先は厳しく、特に高齢者を対象とした呉服や線香などの店は、売上がかつてないほど低調であった。暑すぎる気候の影響で、熱中症を恐れて外出が控えられたことが要因である。
	×	輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・暑すぎて外出の抑制が推奨されているため、当社製品の販売機会が減少している。
	×	金融業〔投資運用業〕（代表）	それ以外	・数千品目にわたる値上げが続いているほか、ガソリン税のトリガー条項の凍結解除について実施が遅れている状況では、景気は良くなる見込みはない。
	×	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・物価の上昇が止まらない。
雇用関連 (近畿)		-	-	-
		人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・求人数は高止まりしており、派遣社員よりも正社員の求人が増えている。また、求職者の間でも正社員の求人が人気を集めている。
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・建設業では、熱中症予防の義務化によって交代要員が必要な現場が増え、求人数の増加につながっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		人材派遣会社 (営業担当)	それ以外	・求人は事務職以外で増えているが、求職者は事務職を希望するケースが多い。事務関連の仕事が増えて、時給が上がっている状況ではないため、なかなかマッチングができない。
		人材派遣会社 (営業担当)	求人数の動き	・求人数は例年と比べて大きな変化はない。採用がなかなか決まらないため、複数の人材派遣会社に依頼する動きがみられる。
		人材派遣会社 (管理担当)	求職者数の動き	・大阪・関西万博への人材供給は順調であるが、他の観光関連では案件数は増えているものの、それに対する求職者の応募がなく、伸び悩んでいる。
		人材派遣会社 (支店長)	採用者数の動き	・米国の関税引上げの影響が、上半期はほとんど変化がなく、様子見の動きが続いている。
		新聞社 [求人広告] (営業担当)	それ以外	・株価は上がっているものの、物価上昇を賃金の伸びが下回る問題は解決されておらず、景気が良くなっているとはいえない。
		新聞社 [求人広告] (担当者)	それ以外	・大阪・関西万博といった明るい話題はあるが、マスメディアに対する企業のプロモーション費用の推移に大きな変化はない。
		職業安定所 (職員)	求人数の動き	・一部で廃業する事業所などの話も出ているが、3か月前と同水準の求人の申込みがあるため、全体的には変わらない。
		職業安定所 (職員)	求人数の動き	・新規求人数が前年比で5か月連続の減少となっている。
		職業安定所 (職員)	求職者数の動き	・物価の上昇に伴い、年金生活や日常生活の維持、生活費補填のための求職者が、依然として目立っている。
		職業安定所 (職員)	求人数の動き	・4～6月は3か月連続で前年よりも求人数は増加したが、7月は減少となり、8月は再び増加傾向で推移している。一部の求人には持ち直しの動きがみられるが、最低賃金の引上げに備えて、求人の姿勢が慎重になるという声も出てきている。
		民間職業紹介機関 (営業担当)	それ以外	・8月は大学が夏季休暇に入り、新卒生や3回生との接触がなく、動きは停滞している。お盆の8月中旬以降に、2026年卒の学生で公務員や大学院進学からの進路変更者が出ており、その動向次第では、また動きが出てくると予想される。進路変更者の数自体は前年と大きな変化はなさそうであるが、売手市場であるため、自由に活動している学生が多い。
		学校 [大学] (就職担当)	それ以外	・初任給などの雇用条件が向上している業界と、停滞している業界に2極化しつつある。
		学校 [大学] (就職担当)	採用者数の動き	・採用活動の早期化が、採用者数の増加によるものとは一概にいえず、採用予定数は前年並みという医療機関が最も多い。ただし、予定どおりに採用人数が充足できるかどうかは、また別の問題として存在するようである。
		その他雇用の動向を把握できる者	求人数の動き	・原材料価格やエネルギー価格の高騰で利益が圧迫され、求人の募集人数を精査する動きにつながっている。米国の関税問題の影響で先が読めず、景気の先行きを不安視することで、設備投資や求人の募集を抑える声も出ている。
		民間職業紹介機関 (営業担当)	求職者数の動き	・時期的な動きもあって、求人数や求職者数は減少しており、景気はやや悪い状況にある。大阪・関西万博での就業者が多いせいか、特に求職者は前年比で大きく減少している。
		学校 [大学] (就職担当)	それ以外	・米国の関税引上げにより、自動車メーカーの業績に悪影響が出ると予想されるほか、物価上昇による消費の冷え込みも顕著になる。
	x	*	*	*

9. 中国 (地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター)

(- : 回答が存在しない、* : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (中国)		コンビニ (店長)	来客数の動き	・インバウンド客数も安定し、お盆休みを挟んでも国内の移動や観光客も増加している。
		一般小売店 [洋裁附属品] (経営者)	単価の動き	・暑さが収まらないが、客の動きはある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店 〔靴〕（経営者）	単価の動き	・サービスの値上げや高単価商品にも安定的に集客できるようになってきた。
		コンビニ（副地域ブロック長）	単価の動き	・商品単価が全体的に上昇しているため、売上は改善傾向にある。猛暑の影響で来客数は伸び悩んでいるが、特に飲料や食品の単価が上昇しているため、全時間帯で売上は改善傾向である。
		家電量販店（副店長）	販売量の動き	・売上が前年比105%で推移しており、景気が良いとまでは言わないが、底堅い需要がある。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・来場者数は少ないが、目的を絞って来店する傾向なので、成約率が高まっている。在庫量が減少傾向で、商品不足が懸念される。
		その他小売 〔ショッピングセンター〕（支配人）	来客数の動き	・7月前半はSNSで広まった大災害の噂で、外国人観光客が少なかったが、後半で大きく巻き返し、インバウンド消費は強い。また、猛暑の影響で盛夏商品や涼味が好調に推移している。夏休みに入り、若年層の支持がある店舗の売上が伸長した。
		高級レストラン（事業戦略担当）	来客数の動き	・直近の予約が多いため読みづらいが、前年よりも良い。
		観光型ホテル（予約担当）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク後の閑散期と比べると目が回るほどの忙しさだった。これからは紅葉シーズンに入るの、来客数の増加に期待したい。
		観光型ホテル（副支配人）	来客数の動き	・この夏は天候に恵まれ、多くの宿泊客や日帰り客があり、売上と利用者数が前年と比べて約7%伸びている。
		都市型ホテル（宿泊担当）	販売量の動き	・アジア圏を中心とした個人インバウンドの増加もあり、大きく単価を下げることなく販売量が増えている状態である。
		都市型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・8月の宿泊予約ペースは、3か月前と比べて良くなり、特に直近の動きが活発で、最終的には前年を5%程度超えた。ただし、レストランの8月の予約ペースは前年と比べて2%ほど減少している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・月前半は天候が良く、利用客が多かったが、後半はそれほどでもなかった。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・夏季休暇で、帰省や旅行など移動に際してのサービスニーズが多かった。また、家族や友人間で日常商品が話題になり、サービスの見直しや変更が発生したとみられる。
		競艇場（企画営業担当）	販売量の動き	・お盆レース及び月末のG3競走で売上が確保できた。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・前年の同時期に比べて購入単価が下がっており、暑さで昼間の来客数も減少している。
		商店街（理事）	来客数の動き	・物価高と猛暑でショッピングを楽しむ気持ちになれない。猛暑は大敵である。
		商店街（代表者）	単価の動き	・売上は若干良くなっている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・猛暑なので、朝と夕方の来客数が多い。
		一般小売店〔食品〕	来客数の動き	・来客数は前年を下回っている。商品単価の上昇により売上を確保している状況に変化はない。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	販売量の動き	・当店の抹茶部門は外国からの注文やインバウンドの売上で相変わらず好調である。ただ、新茶価格の高騰から、これから値上交渉をする時期になるので、この景気も減速するかもしれない。
		百貨店（広報担当）	販売量の動き	・大幅な増減もなく、ここ数か月、ほぼ変わらない推移となっている。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・金製品などの高額品に動きは見られるものの、買上率は微減傾向で余り変わらない。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・ハイブランドのジュエリー、時計、洋服などは販売につながっているが、一般ブランドの婦人服や紳士服の動きは悪く、売上が伸びない。
		百貨店（外商担当）	お客様の様子	・物価上昇や猛暑で厳しい状態が続いており、特に衣料品関係は苦戦している。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・100万円超の家具や美術品が売れても、前年の数字には届かず厳しい状況で、来月も安心できない。
		百貨店（総務・経理担当）	来客数の動き	・インバウンドの動きは減少傾向であり、猛暑による購買意欲も低下している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（店長）	販売量の動き	・単価上昇により売上確保はできている状態であるが、販売点数は前年より悪い。原材料価格の高騰は継続しており、今後も下がる見込みはないと思われる。一方で、物価高騰に対して収入面は改善が進んでおらず、格差がある。しかし、現在の状況に慣れつつあり、このまましばらく続くと考えられる。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・食品の値上げが続き、客の買物かごの中身が増えない状況が続いている。1品単価は104%と上がっているが、点数が95%と伸びていない。今後も客の財布のひもは固く、無駄な買物はしない状況が続くようにみられる。
		スーパー（販売担当）	販売量の動き	・一般的に買物を楽しむ雰囲気は少なく、必要な物のみ厳選して買物をしている状況が続いている。
		スーパー（販売担当）	お客様の様子	・最大9連休のお盆商戦の売上は前年並みで、来客数も大きく伸びなかった。買上点数もおおむね変化がなかった。
		スーパー（業務開発担当）	販売量の動き	・商品価格の高騰で売上は5%程度上昇しているものの、来客数は前年並み、販売点数は2%程度減少となっている。
		スーパー（財務担当）	来客数の動き	・来店客数は前年を上回る状況が続いているが、1人当たりの買上点数は前年を下回っている。売上は、単価の上昇により前年を上回っている。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・余り景気が良くなる話を聞かない。
		衣料品専門店（経営者）	それ以外	・呉服関係は、職人の高齢化などの理由でやめる問屋があり、今後良い物ができなくなることを危惧している。
		衣料品専門店（代表）	販売量の動き	・物価高騰により節約志向が続いている。
		家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・来客数が前年を下回っているが、家庭用ゲーム機のお陰で売上は悪くない。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・商品の生産がされず、販売量につながらない。
		乗用車販売店（リース担当）	来客数の動き	・数年前と比較すると来客数が減少し、客も無理に点検を受けない。
		乗用車販売店（業務担当）	来客数の動き	・来客数と販売量に変化はない。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・相変わらず売上が低調に推移しており、景気は良くない。
		その他専門店【土産物】（経営者）	お客様の様子	・インバウンドの客を見掛けることが多くなったが、観光客数全体で言えば変わっていない。飲食代も値上げが続き、収入が増えても値上げ分に追いつかない。
		その他専門店【和菓子】（経営者）	お客様の様子	・お盆の帰省が分散し、大きな伸びはなかった。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・お盆休みが最大9連休あったものの、前年より観光客は少なく、あまり移動していないと思われる。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数の多いときと少ないときの差が大きい。
		一般レストラン（店長）	来客数の動き	・来客数は前年並みで推移している。予約も安定して入っているが、大きな伸びはない。
		都市型ホテル（宿泊担当）	来客数の動き	・猛暑や大阪・関西万博の影響で、当エリアへの観光需要が落ちている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・今月は悪天候や大きなイベント開催の影響で売上は向上し、やや好景気の状態となっている。
		タクシー会社（営業所長）	お客様の様子	・観光関連については比較的好調であるが、一般タクシーの利用については、日中、夜間共に動きが鈍い。
		通信会社（運用担当）	単価の動き	・物価高による購買抑制が働いている。
		通信会社（企画・総務担当）	競争相手の様子	・市場に活況感があるが、価格を重視する顧客の動きがあり、競合企業間のキャンペーンを通じた価格競争が激しい。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・特段、消費傾向が変わった動きはない。
		放送通信サービス（総務経理担当）	お客様の様子	・家計からの可処分支出である利用料金の延滞及び延滞解消について、特に大きな変化はない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（総務担当）	それ以外	・人件費や資機材の価格が高騰しており、サービスメニュー原価にどの程度反映すべきか検討せざるを得ない時期にきている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症が収まったが、人の流れが減少し、空き店舗が増えている。当店の客も戻っておらず、売上が減少している。
		設計事務所	お客様の様子	・様子見する案件と今やるべき案件に分かれているが、進んでいる案件の量がそれほど減っていない。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・新築住宅やリノベーションの引き合いはあるものの、建築物価が上昇していることから、具体的にプロジェクトが進まない。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・住宅購入を後押しするような補助金や税制優遇といったものがなく、客の様子は非常に落ち着いている。
		住宅販売会社（事業推進担当）	お客様の様子	・依然として、販売物件に対する反響や集客は芳しくなく、買い渋りが続いている。購入意欲はあるが、先行きが不透明なため、決断までに相当時間を要している。
		一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	単価の動き	・仕入価格が上がっているため商品の値上げをしたので、安い商品に客が流れている。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	来客数の動き	・例年以上に夏枯れがひどく、材料費の上昇も予想以上となっている。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・夏休みの催事に伴い、入店客数は増加しているが、売上と販売点数は減少している。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・全国的な猛暑が続いているなかで、購買年齢層が高い当店では、婦人服のミセス部門の売上が前年比87%前後と非常に厳しい状況が続いている。ファッションが最も売れない時期であり、外出を控えている傾向も続いている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・3か月前の来客数は前年の100%前後で推移していたが、8月はお盆以外の来客数が減少し、前年の93.7%となっている。値上げによる単価の上昇で売上は前年並みとなっている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・買上点数が3か月前から減少傾向となってきており、客の節約志向がみられる。
		コンビニ（支店長）	来客数の動き	・自動車メーカーが存在するエリアの来店客数が著しく低下している。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・衣料品の需要が少なくなっている。
		家電量販店（店長）	お客様の様子	・物価上昇の影響が大きく、必要最低限の消費となっている。客の購入意欲が低下し、この先も不安である。
		乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・8月の販売量は前年比68%と大変厳しい状況となっている。
		その他専門店〔革製品〕（店主）	来客数の動き	・近年、客はじっくり考えてから購入する様子で、買物に対してシビアになっており、それに加えて異常な暑さの影響で、客足が遠のいている。当店は、街の中心部から少し離れているため、そういった傾向が一層あると思われる。
		その他専門店〔宝石店〕（店員）	販売量の動き	・連休中は、低単価の店にはにぎわっていたが、高額商品を扱う店の来客数は少なく、悪い状況である。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・猛暑の影響で、週末の主力客層であるファミリーの利用状況が、ランチタイムを含む早めの時間帯に移った。また、食事中心の注文で、特に生ビールの注文が7割程度に低下し、節約志向での利用とみられる。9連休があったので、7月まで好調であった法人の宴会利用が8月の第1週に集中し、お盆明け以降は、前年の90%程度の売上となっている。
		その他飲食〔カフェ〕（店長）	お客様の様子	・客足が鈍い。
		旅行代理店（支店長）	販売量の動き	・個人については国内旅行が前年割れの状況となっている。物価や人件費の高騰が宿泊代金に反映しており、旅行控えが顕著になっている。海外旅行については前年をクリアしているものの、近場が多く、販売単価も低いため、復調に至っていない。
		通信会社（広報担当）	お客様の様子	・客はとにかく安いものを求めている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		テーマパーク (業務担当)	来客数の動き	・猛暑により外出を控える傾向が高まり、夏休みがハイシーズンではなくなり、アウトドア業界は苦戦を強いられている。加えて、お盆の連休に数日続いた雨で、予約がほぼキャンセルとなった。
		住宅販売会社 (住宅設計担当)	販売量の動き	・販売量が低調で回復の兆しが無い。情報獲得量の減少が原因とみられる。
	×	コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・ここ2~3か月は来客数が前年を割っており、非常に厳しい。特に3連休の2日目は雨の影響が強かった。また、店舗前の交通量が減っており、来客数が増えない状況となっている。
	×	自動車備品販売店(経営者)	販売量の動き	・お盆期間のメンテナンス需要が減っている。ハイブリッド車と電気自動車が増え、オイル交換が激減している。タイヤも海外格安製品の需要が増え、減収減益である。また、インターネットで購入した商品持込みも増え、店舗在庫の動きも悪い。
	×	ゴルフ場(営業担当)	販売量の動き	・8月前半は豪雨によるキャンセルが発生し、お盆明けからは暑さにより予約が増えないなど、天候の影響が大きい。
	×	美容室(経営者)	販売量の動き	・例年であれば夏向けの商品の動きはあるが、客の財布のひもが固くなっており、売上は芳しくない。
	×	設計事務所(経営者)	お客様の様子	・収入の伸びが今後も期待できず、客の反応は弱い。
企業 動向 関連 (中国)		食料品製造業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・お盆期間終了後も受注が落ちず、高水準のままである。
		輸送用機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・繁忙である。
		繊維工業(財務担当)	受注量や販売量の動き	・猛暑が続いているが、それに対応した商品の動きが活発である。
		窯業・土石製品製造業(総務経理担当)	受注量や販売量の動き	・輸出向け対応があり、一部の部署で多忙な状況となっている。
		非鉄金属製造業 (業務担当)	取引先の様子	・液晶パネルメーカーの稼働、生産状況がフルに近づいており、増設等を検討しているとの情報があった。
		輸送業	受注価格や販売価格の動き	・受注が増えている。
		会計事務所(経営者)	受注量や販売量の動き	・新規取引を徐々に開始している。ただし、人手不足と人件費負担の増加が大きく、効果が減殺されている。
		農林水産業(従業員)	受注量や販売量の動き	・特に物事が動くようなことがない。
		鉄鋼業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・景気に大きな変化はみられない。
		金属製品製造業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・毎月、定時工数以上の受注を確保しており、この状況は今年1月から変わっていない。工作機械の客先からの受注が継続していることが要因である。
		一般機械器具製造業(管理担当)	受注量や販売量の動き	・米国の関税の不安定感が残っているものの、受注状況に大きな変化はなく、おおむね順調である。
		電気機械器具製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・電子機器部品製造装置や液晶パネル製造装置の需要は引き続き減少傾向である。自動車向け製品も生産調整が続いている。
		建設業(経営者)	取引先の様子	・契約までは至っていないが、工場新設の投資計画や修繕工事もあるので、受注量は確保できている。
		建設業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・物価上昇や働き方改革の共通認識が深まり、交渉面で比較的スムーズに推移している。
		輸送業(業務推進担当)	取引先の様子	・特に大きなプラス要素やマイナス要素はなく、取引先の動向にも目立った様子はない。
		輸送業(企画担当)	取引先の様子	・発注済みや見積中の設備及び設備工事の依頼先との打合せにおいて大きな変動はない。
	通信業(企画担当)	受注量や販売量の動き	・ここ数か月、クラウドとデータセンター関連の引き合いに大きな変化はなく、一定のニーズがある。また、セキュリティに関する商品に客の反応が良く、引き合いも徐々に増加している。	
	食料品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・猛暑のなか、受注量が一段と減少している。企画提案をしても反応は薄く、厳しい状況が続いている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・米国の関税等の理由により、モノの動きが様子見の状態である。
		輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・輸出案件の引き合いが米国の関税の影響で減少している。
		金融業（副支店長）	取引先の様子	・最低賃金の引上げや労働力不足等による人件費の高騰が続いており、併せて域内の大手プラント企業の不調から仕事量が大幅に減少し、景気は悪化している。
		金融業（経済産業調査担当）	それ以外	・見込まれていたほど物価の伸びが縮小せず、消費の持ち直しには至っていない。
		不動産業（総務担当）	それ以外	・来客数、成約件数共に約3%落ち込んでいる。
	x	-	-	-
雇用 関連 (中国)		民間職業紹介機関（職員）	それ以外	・駅前再開発に大きなめどが立ち、新たなモビリティハブとして連日にぎわいを見せている。移動利便性の向上が集客力と回遊性を高めており、経済効果も既に表れている。駅の利用者数は前年比14%増とのことである。
		民間職業紹介機関（人材紹介・派遣担当）	採用者数の動き	・人材紹介において採用数が3か月前と比較して170%上昇している。ゴールデンウィーク明け以降、第2新卒の採用が活発化し、有効求人数も増えたことが理由である。
		人材派遣会社（経営企画担当）	求人数の動き	・一般事務の求人数は戻ってきているが、原料価格高騰、人件費高騰の影響により、医療機関の求人獲得に苦戦している。
		人材派遣会社（求職者対応）	求職者数の動き	・前年と比べて応募数に変化がない。
		人材派遣会社（支店長）	求職者数の動き	・以前と変わらず、良いところがあれば転職したいと思う程度で、中長期での動きを考えている人が多く、近々で活発に動くケースは少ない。
		求人情報誌製作会社（新卒採用担当）	採用者数の動き	・新卒採用数に変化がない企業が多い。
		職業安定所（事業所担当）	求人数の動き	・前年同月比で有効求人数はほぼ変わらないが、有効求職者数は、特に中高年層で増加傾向のため、有効求人倍率は減少傾向にある。当面は同じような状況が続くとみている。
		学校〔大学〕（就職担当）	周辺企業の様子	・企業の採用状況は変わっていない。
		人材派遣会社（事業部長）	周辺企業の様子	・半導体関連と自動車関連は米国の関税の影響によって、また、医療機関は人件費や原材料コスト上昇分を価格に転嫁できないことから、それぞれ新規の求人が抑制されてきている。
		求人情報誌製作会社（総務担当）	それ以外	・掲載料金の支払が遅延している取引先が増加傾向である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・酷暑、米国の関税、物価高騰、参議院選挙の結果等の影響で、外出頻度が低下し、消費が鈍り、企業の設備投資や生産体制が様子見の状態になっている。
		職業安定所（事業所部門）	周辺企業の様子	・小規模事業所の廃業が増えている。企業からの求人数も減少している。
		学校〔短期大学〕（進路指導担当）	採用者数の動き	・例年と比べて不合格となる応募者の数が増えている。春の採用活動が一段落した影響もあるが、売り市場にやや変化の兆しがあるのかもしれない。
	x	-	-	-

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)		スーパー（店長）	来客数の動き	・夏季休暇や芸術祭開催により、人流が増加しているとみられる。
		スーパー（企画担当）	単価の動き	・新米の販売など高単価の商品が売上増加に寄与している。しかし、来客数は他社への買い回りなどがあり伸びは鈍い。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・バーゲンセール開催月であり、猛暑が収まる夕刻からの来客が多く、売上は前月比で増加している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・エアコン等の季節商材に加えOSサポート終了前の需要で、パソコンの販売量が増加している。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・お中元シーズンであったこと、また、猛暑が続いたことから、飲物の販売が好調であった。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（館長）	来客数の動き	・前年度も好調に推移していたが今年の夏季繁忙期は更に良い。8月は、売上、来客数共に比較的好調であった前年を大幅に上回っている。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・8月は繁忙期であり、多くの来客があった。客単価も上昇しており、売上は目標を上回った。
		通信会社（支店長）	単価の動き	・高単価のプランを選択する客が一定数いる状況である。
		競艇場（マネージャー）	来客数の動き	・例年以上の猛暑により、屋内向けの遊興が上向いているとみられる。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・大規模な祭り、お盆などの時期であり、県外からの観光客とインバウンドの動きが活発であった。クルーズ船の寄港も影響が大きく、特に飲食店が好調であった。
		商店街（代表者）	それ以外	・給与所得が増加する気配はなく、個人の資産増加要因は株価の上昇しか見当たらない。株価の上昇は都市の大小に関係なく影響を及ぼすことから、景気はしばらく恩恵を受けるとみられる。
		商店街（代表者）	単価の動き	・原材料費が少しずつ上昇しているなかで、販売価格への転嫁が難しい状況が続いている。人件費も最低賃金を上げる方向が示されているため、少しずつ上昇傾向に向かっている。厳しい状況が続いている。
		商店街（常務理事）	来客数の動き	・アジア系のインバウンドの減少傾向が6月頃から続いている、一部の店舗では売上にも影響が出ている。一方で、国内観光客が大幅に増加しており、商店街のにぎわいや活気は保たれている。株式市場が好調であり、高額商品の需要は堅調に推移している。一方で、一般消費者は財布のひもは固いままである。
		一般小売店〔文具店〕（経営者）	来客数の動き	・秋に向けた注文はあるが、受注量は減少している。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・物価高と猛暑の影響で、飲食店への客足が遠のき、納品量が減少している。
		百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・為替の変動により、インバウンドによる売上が大幅に減少している。地元客への高額品販売は好調であるが、物価高の影響から前年の売上をわずかに上回る程度である。
		スーパー（統括担当）	販売量の動き	・来店数が減少しているが、客単価は上昇傾向にあり、経営的には安定している。しかし、消費者の節約志向は高まりつつあるとみられる。
		スーパー（人事）	販売量の動き	・値上げが続いており、客の消費行動は慎重である。
		コンビニ（商品担当）	単価の動き	・急激な気温の上昇、猛暑により飲料などの販売は堅調だが、調理済み品の売上が厳しい。米、輸入肉などの価格も高止まりしている。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・異常な猛暑のためか来客数が減少している。物価高も続いており、地元の客はかなり買い控えがあるとみられる。
		衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・前年度と同水準で推移している。顧客の動きは良いとはいえず、暑さにより来客数が減少している。
		乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・人気車種の再販売が開始されたが、台数限定でありすぐに受注停止になるとみられる。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・車の販売台数及び客の購買意欲に大きな変化はない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・景況感に大きな変化はみられない。祭りの開催時期には少し利用客が増加したが、それ以外の時期においては実車率は低く、利用客はまばらである。
		通信会社（営業部長）	販売量の動き	・お盆時期には帰省客による来客数増加を期待したが、増加はわずかであり、期待していた売上に到達しなかった。
		観光遊園地（主幹）	来客数の動き	・前年同期並みで推移した。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		設計事務所（所長）	単価の動き	・建築単価は高止まりのままであり、変化はない。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・物価上昇のため、お盆のお供え物を例年よりも安い商品で済ませようとする傾向がみられた。高齢化の進行、若い世代の墓離れ、猛暑、豪雨などにより墓参りを控える人が多かった。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が前年割れしている。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・近年の異常気象による気温上昇により、日中の店舗への来客頻度が減少している。また、集中豪雨などの急な天候変動による影響も受けている。
		スーパー（財務担当）	来客数の動き	・お盆前半に雨の日が多かったことから、来客数は前年以下となった。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数が前年を下回っている。物価上昇により客単価は上昇しており、店舗を利用する客層が分かれてきたとみられる。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・物価上昇が続いており、売上は順調な推移ではあるが来客数がやや減少している。また、購買意欲が低下しており、余分な商品は買わない傾向にある。
		コンビニ（総務）	来客数の動き	・来客数が前年を下回っている。
		家電量販店（副店長）	販売量の動き	・エアコンは落ち着いているが、パソコンはOSのサポート終了により好調に推移している。全般的に大きな変化はない。
		一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・売上が減少している。広告やキャンペーン等で何とか前年割れを防いでいるが、厳しい状況である。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・宿泊部門は比較的順調であるが、猛暑の影響からか飲食部門の動向が良くない。
		旅行代理店（部長）	販売量の動き	・日本人の国内旅行が下降傾向である。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・期待していたほど客が動かなかった。暑さの影響で家から出られないという客の声が多かった。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・高齢の客は昼間は猛暑で来店を控えているという声をよく聞く。実際、昼間の来客が少ないとみられる。
	×	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・店頭売上は前年並みだが、外商売上が前年を大きく割り込み、結果として売上減少となった。
企業 動向 関連 (四国)		食料品製造業（商品統括）	受注価格や販売価格の動き	・販売単価が上昇し利益は出ているが、販売量は減っていることが懸念事項である。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・連日の猛暑の影響もあり、店頭に出向く客が減少しているとみられる。汗を拭うためのタオルの購入が多くあり、タオルを扱う店のみならず他業種の店においてもよく売れている。
		金融業（副支店長）	取引先の様子	・先行きの不透明感があつたものから、改善の兆しがみえてきている。
		木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注量が落ち込んでいる。8月は稼働日が少なく動向が良くない。
		化学工業（所長）	受注量や販売量の動き	・前年販売数量を上回ることがなく、非常に停滞感がある。
		一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・日本国内では、大規模工事が実施、計画されているが、慢性的なオペレーター不足や資材価格高騰等の影響がある。海外では、一部地域を除き、ここ数年の急速な需要増加傾向に落ち着きが見え始めている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注が伸びていない。
		輸送業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注金額は大きくは変わらない。
		通信会社（総務担当）	それ以外	・自社での祭り参加者数は前年以下であったが、グループ会社では祭りへの参加を復活させたようである。景気は、前年より良くなっているようにみられる。
		鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・造船部門は良好に推移しているが、建設機械部門は4月辺りから低調である。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上がかなり落ち込んでいる。企業や大口客の購買意欲が低下している。株価は回復しており、気持ちの面では幾らか余裕はある。
		通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・大手企業は堅調だが、中小企業からテレビCM作成依頼が減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	x	-	-	-
雇用 関連		-	-	-
(四国)		-	-	-
		人材派遣会社 (総務部長)	求職者数の動き	・求職者の動向に左右されるとみられる。
		職業安定所(求人開発)	周辺企業の様子	・世界経済は緩やかな回復局面にあったが、米国の関税政策により景気は後退するとみられる。国内でも米国による関税政策を受けた輸出の減少や、中国との競争激化の懸念もあり、景気に不透明感が増しているという声がある。
		民間職業紹介機関(所長)	求人数の動き	・有効求人倍率を見ても横ばいからやや減少傾向にあり、景気が上向いている傾向はないとみられる。
		人材派遣会社(オフィス責任者)	周辺企業の様子	・動きが停滞している企業が多い。人手不足もあり、新しい取組も見られない。
		求人情報誌(営業)	採用者数の動き	・新卒採用、中途採用とも求人数は多い状態であり、求人倍率も高い。求人倍率が高い状態が景気が良いとされるが、長期的な人手不足、人件費高騰により中小企業では業務が予定どおり進まない企業も多く、特にサービス業においてはその状況が強いとみられる。
		新聞社[求人広告](担当者)	それ以外	・民間企業のマス広告はわずかではあるが減少が続いている。
	x	-	-	-

11. 九州(地域別調査機関:公益財団法人九州経済調査協会)

(-:回答が存在しない、*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連		-	-	-
(九州)		-	-	-
		百貨店(企画担当)	販売量の動き	・国内株価の好調ぶりもあり、国内消費が意欲的になっている。また、インバウンドの購買金額も安定しており、3か月前と比較すると多少上向きと判断できる。
		百貨店(企画担当)	お客様の様子	・厳しい暑さが続いており、年齢を問わず涼しい屋内施設での需要が高まっているため、前月まで動きが鈍かった衣料品も実需で売れている。
		スーパー(経理担当)	販売量の動き	・買上点数では前月の前年比98.0%であったが、8月現時点の前年比99.6%と回復している。
		コンビニ(経営者)	販売量の動き	・猛暑の影響により客足の伸びが止まっているものの、夏物商材が順調に伸びており、好調である。
		コンビニ(店長)	販売量の動き	・猛暑の影響で、売上が良くなっている。
		乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・県内外の度重なる自然災害の影響もあり、問合せがかなり多くなっている。
		その他小売の動向を把握できる者[ショッピングセンター](支配人)	お客様の様子	・今月は、当館では映画館での複数の話題作が好調を維持しており、全体的に好影響を与え特需となっている。特に作品の関連グッズを取り扱う雑貨店舗や飲食店には明確に波及効果が出ているが、その一方で、店舗数の純減もあるため一概にはいえないものの、アパレル業種が前年を下回る推移である。
		都市型ホテル(スタッフ)	販売量の動き	・販売量の実績は、数か月前と比べると明らかに伸長している。しかし、今まで宿泊客数が伸び悩んでおり、値上げをするより部屋数の確保を優先しており単価は据置きにしている。
		旅行代理店(職員)	販売量の動き	・関西へのパッケージツアーや九州内バスツアーの予約の伸びが大きい。
		旅行代理店(統括者)	お客様の様子	・法人客では業績好調企業の需要拡大を継続しているが、個人客ではアッパーミドル層における海外旅行の需要が拡大している。また、インバウンドは堅調に拡大を継続している。
		ゴルフ場(営業)	来客数の動き	・暑さにより、集客数が伸びていない。
		商店街(代表者)	お客様の様子	・景気は3か月前と比較すれば少し戻りつつあるとみられるが、客はまだ慎重に考慮しながら商品を購入している。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・商店街は人通りが少なく、小売店の来客数も減少しており、厳しい状況である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店〔精肉〕(店員)	販売量の動き	・引き続き好調な販売量を維持できる見込みである。
		百貨店(企画担当)	販売量の動き	・セール商品であってもまとめ買いは少なく、多くの客は他店と比較しながら吟味している。
		百貨店(営業担当)	お客様の様子	・豪雨と猛暑で来客数が減少し、また、豪雨による交通障害で周辺地域から本店及び関連店舗への来店やギフトセンター来場への影響があったが、サテライト店及び通販関連では来客数や客単価は伸びている。子供関連催事やふるさと物産催事にはぎわい、花火大会開催日は夕方の来客数が増加し、物産展会場や大食堂を含め混雑した状況であった。加えて、舶来雑貨では価格の上昇はあるものの、購入意欲は高く客単価及び商品単価は依然好調になっている。
		百貨店(業務担当)	お客様の様子	・米の高値の報道や物価高のニュースが多く、客は様々な商品の価格についても値上げを感じており、購入までの決定に時間が掛かったり、購入しなかったりすることが増えている。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・消費者物価指数は上昇しており、消費者の生活防衛意識が高止まりしている状況は変わらない。自社数値も来客数は横ばいであるが、買上点数は減少が続いている。必要最低限のみの購入になっており、チラシ等によりお買い得日の売上指数が伸長している状況に鑑みても景気は変わらない。
		スーパー(店長)	単価の動き	・単価の上昇は続いているが所得は上昇しておらず、可処分所得の減少が続いているため消費への意欲は高まらず、景況感は悪いままである。
		スーパー(店員)	単価の動き	・当店では価格を税込み表記から税抜き表記に変わるときに、多くの商品が実質の値上げ状態になっているが、売上は予算を上回っている。客は多少の価格上昇には慣れてきていると推察する。
		スーパー(総務担当)	販売量の動き	・売上は前年から続く値上げの影響もあり、前年比プラスで推移しているが、全体の販売量は前年を下回るか、減少する状況が続いている。これは米の値上がり等、客の物価高対策として買い控えが続いている結果である。
		スーパー(従業員)	来客数の動き	・食料品価格が継続的に上昇している影響で、客がついで買いをしない傾向が顕著になりつつある。
		コンビニ(経営者)	来客数の動き	・残暑の影響でソフトドリンクの販売は好調ではあるが、景気が良いとはいえない。
		コンビニ(経営者)	単価の動き	・今月は天候が良く異常気温が続き、加えて米飯を中心とした商品の価格が値上がりしたことなど売上全体が底上げした影響で大幅に利益が上がっている。
		コンビニ(エリア担当・店長)	販売量の動き	・来客数が前年割れをしており単価は変わらないが、値上がり商品の買い控えが響いており、全体的に売上が落ち込んでいる。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・景気は良くも悪くもない状態である。
		衣料品専門店(取締役)	お客様の様子	・5月と比べると8月は気温もかなり高く、客の来店頻度や買上枚数、夏物であるため単価についても低くなっている。前年比90%程度と厳しい月となっており、物価高や政治の不安などによるものだと予測している。
		家電量販店(店員)	お客様の様子	・慢性的な物価高に慣れてきている面もあるが、所得がそれを上回る水準ではないため、高価な商品の買い控えが顕著になっている。
		乗用車販売店(役員)	来客数の動き	・子供向けの夏のイベントを開催した結果、週末は多くの家族連れの来店があり、結果的にミニバンタイプの注文数が多くなっている。
		住関連専門店(経営者)	競争相手の様子	・今月、店舗での販売は順調であるが、購入決定に時間が掛かっている。同業者の声を聞くと景気は良くなく、家具類は売れていない。
		その他専門店〔コーヒー豆〕(経営者)	お客様の様子	・前年と比較すると来客数や客の購入単価は、新規の客もあり多少増減はあるもののほぼ横ばいである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	販売量の動き	・国内客の弱さが継続している。また、韓国からのインバウンド減少を中華圏の来客数増加や客高単価で補っている状況も続いている。来客数の大多数は韓国からであるが、客単価は中華圏が韓国より高くなっている。
		都市型ホテル（販売担当）	販売量の動き	・宴会場の回転率が低い。
		旅行代理店（統括者）	販売量の動き	・景気の観点では客や事業パートナー共に大きな変化はみられない。しかし、他県への旅行は例年より減少傾向にある。
		タクシー運転手	お客様の様子	・家族連れやインバウンドが多く、タクシー利用がそれほど伸びていない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・大型クルーズ船の寄港などインバウンドの好調が続いており、アプリを利用したタクシー需要も増えている。また、相次ぐ物価上昇の影響を受け、地元の節約傾向は続いているものの、猛暑による短期間のキャッシュレス決済のタクシー利用は増えている。
		タクシー（統括者）	競争相手の様子	・乗務員の採用状況が、競合他社と比較して後れを取っており、会社全体では稼働数が減少していると考察している。
		通信会社（営業担当）	それ以外	・県全体の最低賃金が上がったが、当社で賃上げの気運がない。
		通信会社（役員）	お客様の様子	・低額プランや競合他社の低価格プランへの移行や乗換えがみられる。
		テーマパーク職員	来客数の動き	・来館者数は3か月前と同様に、ほぼ前年並みで推移している。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・猛暑が続いているものの、気象予報が雨でなければ予約もある程度あり、入場者は順調に推移している。
		競馬場（職員）	販売量の動き	・ほぼ横ばいで推移しており、景気の動向による影響は小さい。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・テレビやラジオ、インターネットなどのメディアでは、景気が今一つであると報道はあるが、美容業界でも夏の暑さもおり下降気味が続いている。大きく景気が動くような画期的な物がないため、おしゃれ産業としては向上していかず伸び悩んでいる。秋から新製品が出るため徐々に上向くと期待している。
		美容室（経営者）	単価の動き	・様々な物が値上がりしても保証がないため、当店でも破格の値段を打ち出している。利益はほとんど出ないが、店を存続するためには値段を下げるしかないのが現状である。
		美容室（店長）	お客様の様子	・生活必需品は購入しているが、食料品や外食費などの何もかもが値上がりしていることが普通になっており、景気が良くなったとは考えられない。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・景気の日安である株価が非常に上がっているが、景気は良くない状況となり薄っぺらな経済効果になっていると推察される。経済を高めるには金を回していかなければ回復しないため、政府に期待している。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・各種イベント等の来場者数もほぼ変わらない状況が続いており、一定数の客の動きは継続している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・物価の上昇と猛暑続きで商店街は閑散としている。食品スーパーの開店時間のみ多少にぎわっている。高齢者が多い地方の商店街では午前中は病院帰りの客や銀行・郵便局等必要に迫られての来街者はあるが、午後からは暑さを避け人通りは極端に少なくなる。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・猛暑でアーケード内の客がまばらで、困っているのが現状である。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・この暑さで来客数が減少している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・米国関税の影響や参議院選挙などがあったが、1番の要因はこの暑さで、商店街への来街者数は減っている。3か月前も良い状態ではなかったが、3か月前と比較してもやや悪くなっている。
		一般小売店〔青果〕（店長）	単価の動き	・お盆にはキュウリやピーマン、トマトなど農産物価が急騰したが、それが落ち着いてからは猛暑で需要がなく価格の高騰につながらず、お盆前の状況と同じ相場になっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店 〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・暑さもあり日本茶の売上は伸びていないが、外国人による抹茶購入は数か月前から増加傾向である。利用方法は不明であるが、購入者は多い。常に在庫はなくなる状態ではあるものの、全体的な売上は低迷している。
		百貨店（経理担当）	販売量の動き	・物価高や猛暑の影響により全体的に苦戦を強いられており、来客数の減少が響いている。サロンの売上は落ちていないが、近隣で買物を済ませようとする購買行動が顕著にみられる。
		百貨店（経営企画担当）	販売量の動き	・猛暑や値上げなどにより、これまで好調であったカテゴリーも苦戦している。また、大雨の影響を受けた後の反動売上も特になく、景気が良いとはいえない状況である。
		百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・猛暑の影響による外出機会の減少に加え、消費マインドの低下がみられる。また、好調に推移していた高額品需要も物価高による商品値上げで一服感がある。特にラグジュアリー商材ブランドの単価上昇は堅調で、売上に影響が出てきている。
		スーパー（企画担当）	お客様の様子	・原材料費や人件費などのコスト上昇分の価格転嫁が進んでおり、買上単価上昇は継続している。一方で消費者の防衛意識の高まりから、買上点数が前年を下回る傾向も続いている。そのため、来店頻度が減少し売上が前年を下回る傾向にある。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・災害や物価高による影響が出ている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・猛暑が続き、加えて大雨の発生による天候不順で来客数が減少している。
		衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・物価高の影響で、衣料品の価格も上がったためセット率が下がり、その結果、前年比86%と客単価も大きく下がっている。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・買物をしようというマインドにならないため、来客数の減少傾向が続いている。
		住関連専門店（従業員）	来客数の動き	・酷暑に加え、線状降水帯などの大雨が続いたため来客数が少ない。
		観光旅館組合（職員）	来客数の動き	・夏休みで子供連れの客は多いが、気温が高く、温泉の利用などはなかなか難しい時期である。
		観光型ホテル（管理）	来客数の動き	・夏の顧客状況は前年と比べ若干減少しており、今後の予約状況も前年と比較すると悪化している。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・光回線契約の新規販売は、前年比から減少し解約が増えている。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・猛暑により来場者数の動きが鈍化傾向にある。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	来客数の動き	・8月に入り新型コロナウイルス感染症が拡大傾向となり、入院や体調不良等の利用キャンセルが増加し、減収要因となっている。また、主力の訪問介護において、人材確保が厳しく機会損失が発生している。
		設計事務所（代表）	来客数の動き	・イベントの来場者数が少ない。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・例年よりも気温が非常に高く、今までの常識では判断できない状況になっている。消費行動にその影響が出ており、ある程度推測できていたことが、今までの経験が役に立たず、低迷した状況が続いている。
	×	商店街（代表者）	お客様の様子	・今年の夏は異常な猛暑であるが、当商店街はテントで営業しており、商品を思うようには陳列できないため、客は近くのコンビニエンスストアやスーパーマーケットに行っているのが現状である。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・猛暑や物価高が原因なのかははっきりしないが、全く客が来店しない。
	×	一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・8月は花屋にとってお盆や墓参りの供花の需要があり期待できるが、今年は水害や集中的な雨で墓参りを敬遠するような天候の影響で売上が伸びず、例年より売上が悪い。
	×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・当店では社用の客が多いため、8月はお盆休暇もあり予約は余り入らなかった。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・売上が前年比15%減少になっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	観光型ホテル (営業)	来客数の動き	・夏の団体客は元々芳しくないが、近年の猛暑が更に悪化させている。加えて、水害や台風などの自然災害が重なり、厳しい状況にある。
	×	観光型ホテル (専務)	来客数の動き	・何が要因なのかははっきりと分らないが、当社だけではなく同じ地域の業者も景気が良くない状況である。
企業 動向 関連 (九州)		-	-	-
		農林水産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・今年は梅雨明けも早く、夏場の消費は順調に伸びている。8月に関しては工場生産に必要な燃料も潤沢にあったため、客先の需要に対応できて売上も計画どおり伸びてきている。特にスーパーマーケット関連、居酒屋関係の需要が大きくなっている。
		電気機械器具製造業(取締役)	取引先の様子	・米国の関税が決定したことで、経費の圧迫要因となるものの先の見通しが立てられる状況となり、取引先からの引き合いも増えつつある。
		輸送用機械器具製造業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・予算や台数に対して上振れ傾向が続いている。
		窯業・土石製品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・売上は変わらない状態である。しかし、価格変動の状態です今後の受注関係に危惧している。
		一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・客の輸出の比率が高いため、今後は米国関税の状況がはっきりするまでは不安定な要素が多く、その状態が当社にも響いてきている。
		輸送業(従業員)	受注量や販売量の動き	・米国向け自動車関税は決まっているが、実際の影響がどの程度発生するか不透明である。また、米国では日本の自動車販売不振で滞留しているため、輸出回復にはまだ時間を要する。荷主はコスト削減のため入札を実施する傾向が強くなっており、昔のように安く入札する業者は難しく、入札価格は現状より高くなるため、一部には2つの拠点を1か所にまとめるなど拠点数を減らす動きもある。
		輸送業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・お盆休み前に例年どおりのまとまった出荷量があったが、予測よりも大きな上振れはなかった。
		金融業(経営者)	競争相手の様子	・同業他社の情報によると、今年の調査の出足が余り良くない状況である。調査はスタートで決まるため、当面は小さな調査を取っていくことになり、景気は変わらない。
		金融業(調査担当)	取引先の様子	・物価高の影響が続いており、大きな変化はない。
		金融業(調査担当)	取引先の様子	・食品や電子機械関連の製造業とサービス業で積極的な設備投資の動きがあり、運輸や建設関連では人手不足感が強まっている。猛暑の影響でハンディファンやネッククーラーなど手軽なクールダウン商材がよく売れているほか、日焼け止めや日傘を購入する男性も増加傾向にある。
		金融業(営業担当)	取引先の様子	・米国関税については、一定の方向性が確認できたものの、その影響については未知数であり、中小企業への影響はまだ見受けられない。しかし、経営者は景気の先行きには楽観視しておらず、設備投資については、補助金の適用がないと消極的な姿勢は変わらない。
		金融業(営業)	取引先の様子	・物価上昇に賃上げが追い付いておらず、賃上げが大企業など一部にとどまっている。可処分所得は減少し、個人の余剰資金は減っている。
		不動産業(経営者)	受注価格や販売価格の動き	・会社の受注状況等に鑑みると、景気の動向は余り変わらない。
		経営コンサルタント(代表取締役)	取引先の様子	・取引先の業況確認により、大きな変化はない様子である。
		経営コンサルタント(社員)	競争相手の様子	・お盆明けの同業者との交流による情報でも、お盆休みもあり新しい動きは全くみられない。
	電気機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・前回の調査と同様に、引き続き受注が低調に推移している。	
	その他製造業 [産業廃棄物処理業]	取引先の様子	・お盆休みも原因の1つとみられるが、稼働日数が少なく受注や生産が落ちている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・当社を取り巻く環境は相変わらず好転していない。売上についても前月比ではプラスになったものの、前年比ではマイナスとなっている。新聞の発行部数の減少に歯止めがかからず、新聞折込の部数もそれに比例して減少しており、3か月前と比較するとやや悪い状態が続いている。
		その他サービス業【コンサルタント】（代表取締役）	競争相手の様子	・当県における市町村の福祉・健康、まちづくり等に関する調査や計画策定の委託業務について、6月の補正予算で計上されている件数が少ないことから、8月における入札において低価格競争となっている。このため、受注できる機会が少なく景気が悪くなっている。
	x	繊維工業（営業担当）	取引先の様子	・海外の工場へシフトしているため発注が少ない。最低賃金の引上げのため、より安くできることを求めており、小規模企業では残業は難しく、結果的に従業員の給料が減っているのが現状である。
	x	経営コンサルタント（代表取締役）	それ以外	・気候変動と自然災害の影響で悪い状況になっていると推察される。
	x	経営コンサルタント（社員）	それ以外	・食品の値上げがあり、特に調味料や菓子の値上げが大きく深刻な状態である。清酒、焼酎は特に売れず倒産の危機感がある。
雇用 関連 (九州)	-	-	-	-
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・3か月前と比べて企業の採用意欲に大きな変化はみられない。人手不足感は続いているが、新規採用を積極的に拡大する動きは乏しく、当社に寄せられる求人件数も横ばいの状況である。
		新聞社【求人広告】（担当者）	雇用形態の様子	・パートやアルバイトの社会保険料徴収に向けたキャリアアップ助成金が7月から始まり、中小企業では雇用の改善に向けた努力が求められている。有効な制度になるとよいが、この効果により景気が良くなるかは見当が付かない。
		新聞社【求人広告】（担当者）	それ以外	・インバウンドについては変わらず好調が続いているが、一般消費者の生活に目を向けると値上げなどの影響もあり、消費行動にも抑制的なところもある。そのため、相殺されている面もあり、景気全体としては変わらない。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・当所管内の新規求職者数が3か月連続で前年比プラスとなっており、新規求人数が減少傾向にあるなかでも、より良い条件を探している求職者数の声を聞く。
		学校【大学】（就職支援業務）	求人数の動き	・8月以降も採用活動を継続している企業は多く、深刻な人手不足を背景に求人件数は増えており、学生には有利な状況である。一方で、採用活動を行う企業や団体にとって苦戦も多くみられ、9月以降も継続して採用活動を行う企業が多い。
		人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・新規の派遣や旧取引客への受注活動を行っているが、発注数が伸び悩んでいる。雇用を前提とした紹介予定の派遣案件なども条件は悪くないが、エントリーの反応が少ない。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数の落ち込みが顕著である。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数が2割強減少しており、問合せは既存や以前から取引のあった企業のみで、新規企業からはない状況である。
		新聞社【求人広告】（社員）	それ以外	・依然として物価の高止まり感があり、景気のマイナスへの変動要因とならないかが心配である。
	x	-	-	-

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (沖縄)		百貨店（経営担当）	来客数の動き	・お中元ギフト目的やインバウンドの来客数が増加している。
		家電量販店（営業担当）	来客数の動き	・来客数は95%と苦戦している。外国人観光客の売上も想定より伸びていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 [書籍] (部長)	来客数の動き	・文具の売上が前年比で5%増加となっている。観光客数が増えたことによる影響が大きい。
		一般レストラン (代表者)	来客数の動き	・お盆休みの帰省や観光、夏休みの影響で来客数が少し増えたとみられる。
		その他飲食店 [ファースト フード] (総務 部)	来客数の動き	・大型レジャー施設開業の影響もあり、入域観光客数の増加による来客数の増加が売上をけん引している。
		観光型ホテル (総支配人)	単価の動き	・夏から秋にかけて前年同期の販売単価を上回る状況が続いている。
		観光名所 (職員)	来客数の動き	・前年度と比較して、平日の来客数が伸びている。また、インバウンドの来客数が増加傾向である。
		一般小売店 [酒] (店長)	競争相手の様子	・食品の物価高は止まらず、飲食店も値上げが続き、飲食チェーン店の倒産、廃業も相次いでいる。
		スーパー (店舗 管理)	お客様の様子	・天候不良による夏野菜の価格高騰が止まらず、通常価格での販売が伸び悩み、消費者の購買は特売日にシフトしている。お盆商戦も9月にずれ込んでおり、例年どおりの数字は見込めない。
		コンビニ (店 長)	来客数の動き	・来客数と客単価に大きな変化がみられないため、景気は横ばいとみている。
		コンビニ (経営 企画担当)	単価の動き	・売上は増加傾向だが、来客数の減少が続いている。値上げによって売上がカバーされている状況である。
		衣料品専門店 (経営者)	販売量の動き	・夏休みに入って来客数は増加したが、物価高の影響により販売量はそれほど伸びていない状況である。
		乗用車販売店 (経理担当)	来客数の動き	・夏のイベントも大盛況である。
		旅行代理店 (マ ネージャー)	お客様の様子	・休みを取り旅行するのではなく、休日や祝日を絡めての見積依頼が多いため、旅費が割高になる。情報だけを仕入れて自分で予約する客も見受けられる。購買意欲はあるが代理店の利用がなければ売上はあがらない。
		住宅販売会社 (役員)	競争相手の様子	・大型レジャー施設開業に伴い、県外からの来訪者も多くにぎわいもあるが、新築物件の売行きにまだ変化はみられない。
		住宅販売会社 (営業担当)	単価の動き	・建設関連の単価が高値で安定している。
		スーパー (企画 担当)	販売量の動き	・今年の旧盆が9月にずれ込んだため、売上動向を正確に比較するのが難しい状況であるが、前年の旧盆前の時期と比べると、売上は前年と同じ水準を維持している。
		コンビニ (経営 者)	来客数の動き	・猛暑の影響で飲料品やアイス等の売上が増加している。
		通信会社 (営業 担当)	販売量の動き	・販売数が伸びてこない。
		通信会社 (サー ビス担当)	来客数の動き	・新料金プランの発表が一段落したことで、来客数が前月より減少傾向にあり、販売機会が縮小している。
	x	観光型ホテル (企画担当)	販売量の動き	・5月の販売室数が前年比24%増加なのに対し、8月は前年比3%減少となっている。
企業 動向 関連 (沖縄)		-	-	-
		建設業 (経営 者)	受注量や販売量 の動き	・同業他社からも受注の先行きに関して、前向きな発言が多く聞こえる。
		輸送業 (総務経 理担当)	受注量や販売量 の動き	・前年同月と比べ、増収増益である。
		食料品製造業 (役員)	受注量や販売量 の動き	・変わらず観光関連は好調に推移している。一方、今年の旧盆は9月になる影響が、もしくは物価高の影響により、消費者の動きが例年になく低調である。
		窯業土石業 (取 締役)	受注量や販売量 の動き	・見積依頼は民間工事が若干増加傾向にあるが、受注状況に大きな変化はない。
		輸送業 (経営企 画室)	受注量や販売量 の動き	・発注数等の変動がない。
		会計事務所 (所 長)	それ以外	・県内の観光業を中心に活況であるが、雇用者の給与などへの還元が浸透しているかどうか不透明である。
		-	-	-
	x	-	-	-
雇用 関連		-	-	-
		-	-	-

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
(沖縄)		人材派遣会社 (総務担当)	求職者数の動き	・求人案件に対して応募者数が少なく、人手不足感は変わらない。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・求人数が前年同月比で増加している。
		学校[専門学校] (就職担当)	求人数の動き	・2026年卒向け求人数は、前年の同時期より減少している。一方、2027年卒向けのインターンシップの案内が増えている。
		学校[大学] (就職支援担当)	それ以外	・雇う側は、物価高騰の継続に加えて、人件費の高騰によりひっ迫しているようにもみられる。バランスが取れてくるまでは、しばらく危機感が続くものとみられる。
		求人情報誌製作 会社(審査)	求人数の動き	・8月は観光シーズンがピークを越える時期となり、ホテルや飲食、レジャー関連の求人数が減少傾向にある。
	x	-	-	-